

聖書の
三つの
テーマ



聖書の三つのテーマ

はじめに

本テキストを手にとられた方へ

ハレルヤ、主よ、感謝します。

皆さんは「聖書の中心テーマは何ですか？」という質問にどのように答えますか？聖書は永遠のベストセラーと呼ばれ、人類史上最も多くの人に読まれてきた書物ですが、その内容を全く知らない人も多いのです。「神は愛である」と聞いたことがある方や少し読んだことのある方もいらっしゃるでしょうが、改めて「聖書のテーマは何か？」と問われると、考え込んでしまうのではないのでしょうか。

聖書は旧約聖書 39 巻と新約聖書 27 巻からなり、著者や執筆時期が異なります。しかし、主は異なる時代、身分、地域の 40 人余りの記者たちに一貫したテーマを与え、それによって全 66 巻を完成させたのです。それが、「キリスト」「神の国」「契約」です。

本テキストの学びを通して聖書全体のストーリーを知ること、聖書を読む時に、今、自分がストーリー全体のどの部分を読んでいるのかを知ることができます。また、主の壮大な計画の中で、自分が歴史のどの時代を生きているのかが明らかになり、主の約束を確信に満ちて待ち望むようになります。

そして、この三つのテーマのテキストは一度学んで終わるものではなく、今後、皆さんが聖書に隠された真実を自分で発見できる助けとなることが最終的な目標です。

すべての学びの前に、聖霊様の助けを求めて学んでいきましょう。

「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊をあなたがたに与えてくださいますように。(エペ 1:17)」

聖書の三つのテーマ

Contents ●目次

はじめに	1
------------	---

第1章

聖書の三つのテーマとは

1. 聖書の三つのテーマを学ぶ祝福	8
1.1 聖書を読む土台が強められます	8
1.2 信仰生活の土台が強められます	9
2. 三つのテーマ、「キリスト」「神の国」「契約」	10
2.1 キリスト	10
2.2 神の国	10
2.3 契約	10

第2章

「キリスト」は聖書最大のテーマ

1. 聖書全巻の「キリスト」	12
1.1 「キリスト」聖書の中心、最大の主題	12
1.2 「キリスト」油注がれた者	13
2. 旧約聖書の「キリスト」	14
2.1 律法書	14
2.2 歴史書	14
2.3 詩書	14
2.4 預言書	14
3. 新約聖書の「キリスト」	15
3.1 福音書	15
3.2 歴史書	15
3.3 書簡	15
3.4 預言書	15

第3章

「神の国」総論

1. 「神の国」とは何か.....	16
1.1 神の支配.....	16
1.2 神の力と性質の現れ.....	16
2. 「神の国」はどこにあるのか.....	16
2.1 エデンの園.....	16
2.2 イスラエルを通して現される「神の国」.....	16
2.3 キリストが地上に回復される「神の国」.....	17
2.4 聖霊が体験させてくださる「神の国」.....	17
2.5 新しい天と地.....	17
3. 「神の国」は、父、子、聖霊そして使徒たちの最も大切な教えです.....	18
3.1 「神の国」は父なる神の計画の中心.....	18
3.2 「神の国」は子なるイエス・キリストのメッセージの主題.....	18
3.3 「神の国」は聖霊によって現される現実の力.....	19
3.4 「神の国」は使徒たちのメッセージの主題.....	19

第4章

「神の国」の歴史

1. 旧約聖書における「神の国」.....	20
1.1 「神の国」と「サタンの国」の戦いの始まり.....	20
1.2 「神の国」の祝福を担う「神の民」イスラエルの創始.....	21
1.3 「神の国」のひな型としてのイスラエル.....	21
2. 新約聖書における「神の国」.....	22
2.1 キリストによる「神の国」の到来.....	22
2.2 旧約と福音書の「神の国」の関係.....	22
2.3 キリストを信じる者に与えられる「神の国」.....	22
2.4 ユダヤ人による「神の国」の拒絶.....	22
* 付録: イエス・キリスト誕生前の準備.....	23

第5章

「神の国」とイスラエルと教会

1. 「神の国」とイスラエルと教会	24
1.1 「神の国」とイスラエル	24
1.2 「神の国」と教会	25
2. 「神の国」の完成	26
2.1 終わりの日に完成する「神の国」	26
2.2 異邦人の完成	26
2.3 イスラエルの救い	26
2.4 キリストの再臨ー千年王国	26
2.5 「神の国」の完成ー新天新地、エルサレム到来	26

第6章

「契約」総論

1. 「契約」とは	28
1.1 「旧約」と「新約」は一つ	28
1.2 「契約」の分類	28
2. 「契約」の意味と役割	29
2.1 「契約」は神と被造物(自然、動植物、人)との間で結ばれたものです	29
2.2 「契約」は神の愛に基づきます	29
2.3 「契約」は変わりません	29
3. 「契約」の方法	30
3.1 「契約」を結ぶ時には血が流され、血はいのちを象徴します	30
3.2 「契約」は、人間の都合や状況の変化で変更できません	30
3.3 「契約」を破る者は、真っ二つに切り裂かれ、呪われます	30
4. 「契約」はすべての人に関係があります	30

第7章

聖書に記された「契約」

1. 天地創造の契約からノア契約まで	32
1.1 天地創造の契約	32
1.2 アダム契約	32
1.3 ノア契約	33
2. アブラハム契約からダビデ契約まで	34
2.1 アブラハム契約	34
2.2 シナイ契約	36
2.3 モアブ契約	38
2.4 ダビデ契約	39
3. 新しい契約	41
4. 聖書に記された「契約」まとめ	44

第8章

「契約」とイスラエルと教会

1. 「契約」とイスラエルと教会	46
1.1 「契約」とイスラエル	46
1.2 「契約」と教会	47
2. イスラエルと教会は新しい契約によって一つにされます	47

第9章

「キリスト」と神の国と契約の関係

1. 「キリスト」は神の国を完成されます	48
1.1 キリストの初臨ー「キリスト」が大祭司として支配される神の国	48
1.2 キリストの再臨ー「キリスト」が王として支配される神の国	48
2. 「キリスト」は契約を成就されます	50
2.1 アブラハム契約の成就	50
2.2 シナイ契約の成就	51
2.3 モアブ契約の成就	52
2.4 ダビデ契約の成就	52
2.5 新しい契約の成就	53

第 10 章

「キリスト」とイスラエルと教会

1. イスラエルは「キリスト」を人類に送り出しました.....56
 - 1.1 旧約時代、イスラエルは「キリスト」の到来を準備し、預言し、熱望しました56
 - 1.2 新約時代、イスラエルは預言どおり、「キリスト」を生み出しました.....56
2. 「キリスト」は教会を地上に建てられました56
 - 2.1 教会は「キリスト」のからだ、「キリスト」は教会のかしら・花婿です56
 - 2.2 教会は「キリスト」の栄光を現すために、聖霊の力によって活動します57
3. イスラエルと教会は「キリスト」によって一つにされます57
4. 「キリスト」まとめ57

第 11 章

学びの終わりに

1. 三つのテーマで聖書を読む58
2. 三つのテーマと信仰生活59

第1章 聖書の三つのテーマとは？

1. 聖書の三つのテーマを学ぶ祝福

(創世 1:1、27-28、12:1-3、I ペテ 2:9-10、3:9)

聖書は、単に個人の救いや幸せについて教えているものではありません。聖書は、全宇宙を創造し支配される主ご自身であり、聖書の中に神が計画されたすべてが明らかにされているのです。神のみことばである聖書がこの地上に成就していくためにイスラエルが選ばれ、私たちもキリストによって新しく造られ、用いられるのです。

皆さんが聖書を読み進めていく前に、この三つのテーマを学ぶことで、聖書の全体像が明確になり、聖書に示されている主の素晴らしさと計画、私たちの役割を知ることが出来るようになりますと信じます。聖書を三つのテーマで学ぶことによって私たちが聖書を読む土台が強められ、それによって、キリストにある信仰生活の土台が強められるのです。

1.1 聖書を読む土台が強められます (ヨハ 1:1-5、5:39)

(1) 聖書全体の流れが理解できるようになります (知的な土台) (ルカ 24:27)

聖書を読んだことがあったとしても、また聖書のストーリーを知っていたとしても、それを独立した点として読むので、知識が頭の中で散らばってしまうこともあります。「聖書のテーマ」を知ることで、一つ一つの点が線となり、線が面となり、面が立体的描写となり、聖書を読むことができるようになります。最初は分からなくても、少しずつ聖書の全体像を共に求めていきましょう。

(2) 素直にみことばを受け入れるようになります (心の土台) (I ペテ 2:1-5)

聖書を個人主義的、民族主義的に理解したり、その国の文化や常識という色眼鏡で自分勝手に解釈したりすると、本来主が意図されたことからずれてしまいます。この学びを通して、主のみことばを頭で理解し、言葉で説明するだけでなく、そのことばを主のことばとしてそのまま受け入れることができるようになります。聖霊の助けをいただいて、素直にみことばを受け取っていきましょう。

(3) 聖書が教える信仰に歩ませてくださいます (信仰の土台) (ヤコ 2:14-17)

聖書に最も多く書かれている主の命令の一つは「聞きなさい」です。ヘブル語では「シェマー」と言い、「聞いて、悟り、従うこと」を意味します。聖書の時代の主の民イスラエル民族と初代教会の人々にとって、信仰とは行動です。「信仰と行いは一つである。」それがイスラエル本来の信仰であり、聖書の信仰なのです。この学びを通して、主を直接的に体験し、「信じることと生きることは一つである」という聖書が教える信仰に共に歩ませていただきましょう。

1.2 信仰生活の土台が強められます (創世 15:5-6)

(1) 主の約束を確信に満ちて待ち望むようになります (ヘブ 11:1-3)

聖書が分かるにつれて、「イエス・キリストこそが私の主である」という主権が回復していきます。聖書全体が見えてくるので、未来に対する主の約束と計画が成就することを確信し、期待して祈ることができるようになります。主の計画の全体と最終ゴールが把握できるので、私たちも明確な展望を持つことができます。

(2) 主の壮大な計画の中での自分が見えてきます (ロマ 4:9-25)

主の壮大な歴史的計画を悟るとき、主が私たちに「私のためのキリスト」から「キリストのための私」という信仰を与えてくださいます。個人の祝福を第一に求める信仰から、他の人を祝福する信仰へと成長させてくださるのです。イスラエルと世界を祝福するという主の計画の中に加えられていることを感謝し、主の計画に自ら喜んで参画するようになります。

(3) 二つの「主の民」の役割と関係が明確になります (エペ 2:11-22)

聖書に記されている二つの「主の民」とは、「血族による」アブラハムの子孫であるイスラエル(ユダヤ人)と、「信仰による」アブラハムの子孫である異邦人クリスチャン(教会)です。ユダヤ人は主から特別に選ばれた民であり、主の壮大な計画の中で全世界のすべての民族を祝福するという重要な役割を担っている民です。また、教会はユダヤ人から多くの祝福を受けており、イスラエルと全世界、そして、それぞれ置かれている地を祝福する役割が与えられています。

「キリスト」の十字架は、今も両者の間にある隔ての壁を壊し、主の偉大な計画の中で両者が一つになります。神の国の福音が全世界に宣べ伝えられ、異邦人の救いが完成します。そして、すべてのユダヤ人が「イエスは主」と信じ、イスラエルが救われる日がやって来ます。聖書は、「キリスト」は再びこの地に戻って来られ、主が約束された「契約」が成就し、「神の国」が完成する日が来ると結論付けています。

主が最終的に何をを目指しているのか、神の国の完成をしっかりと見つめて、私たち教会に与えられた役割を果たさせていただけるよう、祈りながら学んでいきましょう。

※本来教会とは、イエスを救い主キリスト(メシヤ:油注がれた者)と信じるユダヤ人(メシヤニック・ジュー)と異邦人クリスチャン両者の共同体のことです。しかし、本テキストでは異邦人クリスチャンの集まりを指して「教会」と表記しています。

2. 三つのテーマ、「キリスト」「神の国」「契約」

聖書の真の著者である主が聖書に記した一貫したテーマは、「キリスト」「神の国」「契約」です。

2.1 キリスト（創世 3:15、コロ 1:15-20、ヨハ 5:39）

キリストは聖書の最大のテーマです。この世界はキリストによって、キリストのために造られました。全書巻がキリストについて語り、歴史はキリストによって導かれ、完成します。キリストは旧約聖書 39 巻どの書簡にもさまざまな形で現れています。イエス・キリストご自身も「聖書が、わたしについて証言している」と語っておられます。キリストは十字架と復活のみわざにより、イスラエルを通して全世界を祝福するという契約を成就されました。

2.2 神の国（創世 2:4-18、出エ 40:34-38、マタ 4:17）

聖書は創世記から黙示録まで、「神の国とその回復、完成」を語っています。聖書は一貫して、この地に対する「神の国」の回復のストーリーであり、そのためにイスラエルが選ばれています。また、聖書は「神の国」と「サタンの国」の戦いの歴史です。キリストのメッセージも最初から最後まで「神の国」です。神の国とは、ギリシャ語で「バシレイア」と言い、それは「神の支配」のことです。そこには神の愛、聖さ、義が満ち、キリストの救い、癒し、解放が溢れ、神の性質が実現しています。キリストが地上を歩まれたとき、キリストがおられるところに神の国が現されました。現在、イスラエルを通し、また、教会を通して神の国が現されています。そして、キリストが再びこの地に戻って来られるとき、イスラエルと教会は一つとされ、神の国が完成します。

2.3 契約（出エ 19:5-6、エレ 31:31-34、ルカ 22:20）

聖書は創世記から黙示録まで、契約の中で展開する契約の書です。「神の国」の計画はすべて契約によって示され、必ずこの地に成就します。キリスト教会では、聖書を二つに分け「旧約聖書」、「新約聖書」と呼んでいます。このように名付けたのは、「契約」が聖書のテーマを表しているからです。それぞれの契約が、「聖書のどこに書いてあるのか、どんな内容なのか、いつどこで、誰と誰の間で結ばれたのか」を学んでいきましょう。

主が与える契約は英語では「カベナント Covenant」であり、人間同士が結ぶ契約の英語「コントラクト Contract」とは明確に違う言葉が使われています。人間が契約に不忠実であっても、主は契約を忠実に実行されるお方です。主は契約通りに人と歴史を動かし、神の国を完成されます。主は恵みとあわれみに満ちたお方です。

第2章 「キリスト」は聖書最大のテーマ

1. 聖書全巻の「キリスト」 (コロ 1:15-17)

「キリスト」は聖書の最大のテーマです。天地万物とすべての権威は「キリスト」によって造られ、「キリスト」の栄光のために造られました。「キリスト」は「契約」を成就し、「神の国」を完成され、「キリスト」により聖書の歴史が完了することになります。「キリスト」なしには、聖書は結末のない歴史ドラマ、結論のない宗教書になってしまいます。聖書は「キリスト」を語っているのであり、キリスト教とはキリスト信仰そのものです。

1.1 「キリスト」聖書の中心、最大の主題 (創世 3:15、ヨハ 3:16)

アダムが神に反逆して地上の神の国が崩壊した時、主は直ちに、ひとり子「イエス・キリスト」の十字架による回復を宣言されました。それは、神の国を回復し、人類を永遠の滅びから救い出すためです。それゆえ聖書は「キリスト」に焦点を合わせて書かれ、神の計画は「キリスト」の来臨(初臨と再臨)に向かって展開していくことになります。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」旧約・新約聖書 66 巻がこのみことばにまとめられているように、「キリスト」が 2 千年前にこの世に來られて十字架による贖いを成し遂げたことにより聖書の契約は成就し(初臨)、「キリスト」が再びこの世に來られるときに神の国は完成します(再臨)。

(1) すべての信仰者は「キリスト」の十字架によって救われます

(使徒 4:12、ヘブ 11:39-12:2)

過去、現在、未来、すべての信仰者は「キリスト」の十字架によって救われます。十字架以前の信仰者は前もって主に示された「キリスト」の贖いを信じて救われたのであり、十字架以後のクリスチャンは既に完成した「キリスト」の贖いを信じて救われています。両者とも十字架の贖いによって救われるのです。

(2) 旧約聖書のメシヤ預言が初臨の「キリスト」によって成就されました

(I ペテ 1:20、ヨハ 19:28、ルカ 24:27、44)

「キリストは、世の始まる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために、現れてくださいました。」人となってこの地に來られ、十字架で贖いを完成されたイエスによって、旧約聖書で語られてきた「キリスト」が誰であるかが明確にされました。「キリスト」は旧約聖書で預言された「来るべきメシヤ」「神の国の王」「解放者」「油注がれた者」「神と人との仲介者」「大祭司」です。旧約聖書のすべての「契約」は、初臨の「キリスト」によって成就され、「神の国」がもたらされました。

また、神は「キリスト」の初臨によって、旧約聖書では「主」と表記されている聖なる神

聖書の三つのテーマ

の御名を明らかにしてくださいました。その御名は「イエス(ヘブル語ではイエシュア)、主は救い」です。私たちは、神の一方的な恵みによって、聖霊の助けによって「イエスは主！イエスは、生ける神の御子キリストです！」と宣言することができるのです。

(3) 旧新約聖書の預言は、再臨の「キリスト」によってすべて完成されます (ロマ 11:25-27、エペ 1:10、ピリ 1:6、3:20)

キリストの十字架の贖いにより、二つの「主の民」、血族によるアブラハムの子孫であるイスラエル(ユダヤ人)と、信仰によるアブラハムの子孫である異邦人クリスチャン(教会)との間にある隔ての壁は打ち壊されました。異邦人の救いが完成し、イスラエルの救いが完成し、キリストの再臨のとき、両者はキリストにあって一つとされます。再臨の「キリスト」によって旧新約聖書の預言は、すべて実現し、神の国は完成されます。

1.2 「キリスト」油注がれた者 (ルカ 2:10-11、マタ 16:16、ヨハ 20:31)

「キリスト」とはメシヤとも言い、「油注がれた者」という意味です。旧約聖書において、イスラエルでは祭司、預言者、王が油注がれて務めをしました。イスラエルの歴史において、主に選ばれた人たちがそれぞれこの職に就きましたが、それを統合する働きを委ねられた人はいませんでした。

「キリスト」はこれら三つの職務を統合した方であり、神の国と契約を成就されました。「キリスト」は唯一、神と人をつなぐことができる完全な仲介者として、十字架のみわざにおいて、神と人の和解の道を完成されました。

(1) 祭司 (ヘブ 7:24-28)

祭司は、人から神へいけにえを捧げ、執り成す者です。「キリスト」は自らを神へのいけにえとして捧げた大祭司です。

(2) 預言者 (マタ 13:57、ヨハ 6:14)

預言者は、神から人へのことばを啓示する者です。「キリスト」は預言者と呼ばれ、神のことばの啓示となりました。

(3) 王 (イザ 9:6-7、黙示 1:5-6)

「キリスト」はダビデの血統を持ち、預言されたダビデの王座に着く者であり、すべてを治めておられます。

2. 旧約聖書の「キリスト」

旧約聖書のすべての書簡の中には「キリスト」が隠されています。「キリスト」ご自身が、「聖書」は「キリスト」について書いてあると証言されました。

「それから、イエスは、モーセおよびすべての預言書から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。(ルカ 24:27)」

「あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。(ヨハ 5:39)」

新約聖書の中に記されている「聖書」とは、「旧約聖書」のことです。ですから、旧約聖書のすべての書簡の中に隠されている「キリスト」を知るとき、聖書の全体像が見えてきます。

2.1 律法書 (創世記－申命記)

律法書では、「キリスト」到来のための土台作りがなされています。創造主なる唯一の神、人間の創造と墮落、「キリスト」による十字架の贖い、そのためのアブラハムの選び、主の民イスラエルの形成、贖いと契約、幕屋の建設など、「キリスト」の性質と働きの基本的な枠組みが示されています。

2.2 歴史書 (ヨシュア記－エステル記)

歴史書では、「キリスト」到来を準備する過程が記されています。イスラエルの歴史の中で「キリスト」の登場の準備が進められていきます。主の民イスラエルによる約束の地の獲得、主の都エルサレムの神殿を中心とした「神の国」の建設、また、主と主の民が結んだ契約の歴史的展開が記されています。イスラエルの民は主の教えを捨て、王国は二分され、バビロンに捕囚されました。しかし、契約に基づく驚くべき主の主権によって、イスラエルの民はバビロンからエルサレムに帰還しました。

2.3 詩書 (ヨブ記－雅歌)

詩書では、「キリスト」を慕い求める思いが記されています。救い主、贖い主、仲介者としての「キリスト」を慕い求める思いが表現されています。過去における主の救いの歴史を土台とし、やがて来られるキリストを待ち望む思いが綴られています。

2.4 預言書 (イザヤ書－マラキ書)

預言書では、「キリスト」到来の待望と預言が記されています。預言書は、「キリスト」が地上に来られるのを待ち焦がれる書です。小預言書は、民族を国家的、霊的、道徳的に再建する者としての「キリスト」を語っています。主の民を整え、「キリスト」が地に来られることへの希望を語っています。主は、主の民イスラエルに「キリスト」によって王国を回復するという契約を与えました。

3. 新約聖書の「キリスト」

旧約聖書では「影」として隠されていた「キリスト」が、新約聖書では「本体」「光」として登場します(コロ 2:17)。新約聖書は、旧約時代の人々が長年待ち焦がれた「キリスト」の登場を記したものであり、「キリスト」がご自身を啓示された書です。

「神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の全能者の右の座に着かれました。(ヘブ 1:1-3)」

3.1 福音書 (マタイの福音書ーヨハネの福音書)

4つの福音書すべてに、「キリスト」の初臨(処女降誕)と十字架と復活のみわざが書かれています。これらのことが、イエスこそ旧約聖書に預言されている「キリスト」である証拠です。「キリスト」は天地を創造した神であられたお方でしたが、人の姿でこの地上に来られ、イスラエルと全人類の罪の身代わりとなって十字架で贖いを完成されました。「キリスト」はすべての契約を成就し、神の国をもたらしてくださいました。

3.2 歴史書 (使徒の働き)

使徒の働きでは、「キリスト」のからだである教会の誕生と御霊による福音の拡大について書かれています。アブラハム(イスラエル)への約束が、「キリスト」によって実現し、さらに異邦人にも分け与えられたのです。主の契約の通り、聖霊に満たされた弟子たちは、「キリストの御霊」を受け、「キリストの教会」を通して「キリスト」が支配される神の国を全世界に現しています。

3.3 書簡 (ローマ人への手紙ーユダの手紙)

書簡では、「キリスト」のさまざまな御性質と御働きについて解き明かされています。「キリスト」による救いの教理、「キリスト」にあるイスラエルと異邦人の関係、「キリストの教会」とその使命、聖徒の多様な役割について、また、再臨の「キリスト」を待ち望むことについて教えています。

3.4 預言書 (ヨハネの黙示録)

黙示録では、「キリスト」による神の国の完成について書かれています。「キリスト」はこの地上に再臨され、主の民イスラエルのすべての敵を打ち破り、「キリスト」ご自身が治められる千年王国(メシヤ王国)を回復され、その後、「キリスト」はサタンとすべての悪しき勢力を完全に滅ぼし、新しい天と新しい地を創造されます。

第3章 「神の国」総論

1. 「神の国」とは何か

「神の国」とは、ギリシャ語で「支配、統治」を意味するバシレイアという言葉が使われています。「神の国」とは、キリストが支配される領域であり、そこには神の力と性質が現れます。

1.1 神の支配 (詩篇 103:19)

神の国とは、神の支配、神の主権、神が治める権威のことです。主の支配の行き渡っている所、それが神の国です。

1.2 神の力と性質の現れ (Iヨハ 1:5)

神の国とは、神の力と性質がそのまま実現していることです。すなわち、恵み溢れる神の支配があり、神の愛、聖さ、義、全能の力がすべて完全に現れ、キリストによる救い、癒し、解放が満ち溢れ、神の栄光が曇りなく輝いている所です。

2. 「神の国」はどこにあるのか

では、神の支配、神の力と性質を私たちはどのようにして見ることができ、体験することができるのでしょうか。神の国は、聖書の中において、過去にはどのように現れてきたのか、そして今現在、また将来どのように現されていくのかを見ていきましょう。

2.1 エデンの園 (創世 1:27-28、31)

エデンの園は、主が創造された完全な世界です。主は6日ですべてのものを創造され、それをご覧になって「非常に良かった」と宣言されました。神の国が地上に現れ、「非常に良かった」という世界、それが神の国の原型です。

2.2 イスラエルを通して現される「神の国」 (創世 12:1-3)

「エデンの園」で最初の人々が主に反逆したために神の国は失われ、罪と死の支配するサタンが地上に始まってしまいました。主は、キリストによってこの地上に神の国を回復する計画のために、アブラハムと永遠の契約を結び、その子孫イスラエルを通して神の国の福音を全世界に及ぼすことを決断されました。

モーセの時代にはエジプトの奴隷の身分から救い出され、「祭司による神の国」として諸国を祝福する役割が与えられ、ダビデの時代には「王権による神の国」として諸国を祝福する役割が与えられました。しかし、サタンは神の国を担うイスラエルを誘惑し、偶像礼拝によって王国は墮落し、崩壊してしまいました。

2.3 キリストが地上に回復される「神の国」 (マタ 12:28、ルカ 17:20-21)

キリストはアブラハムの子孫ユダヤ人としてこの地上に来られ、大祭司として十字架の贖いを成し遂げ、イスラエルに与えた「祭司による神の国」の役割を完成してくださいました。キリストは十字架と復活によって、罪と死の支配を打ち破り、主の義と愛といのちの支配を地上にもたらされました。キリストがおられる所には、神の国が来ています。そこには、天にあるものがそのまま来ており、天にないものは消えていきます。

キリストが私たちを御心通りに支配してくださることが神の国なのです。イエスは「神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」と言われました。神の国はクリスチャンたちの中に来ており、私たちが主の恵みと祝福をあるがままに味わえる現実なのです。

2.4 聖霊が体験させてくださる「神の国」(エペ 1:14、ロマ 14:17、I コリ 4:20)

キリストが天に昇られた後は、キリストは父なる神の右の座で私たちのために執り成しをしておられます。今の私たちはキリストが送ってくださった聖霊によって、神の国を受け継ぐことができるようになっています。キリストは神の国の力を地上で発揮する権威を教会に与えてくださいました。現在、地上においては、聖霊がキリストのからだである教会を用いて神の国の働きを拡げておられるのです。私たちは聖霊によって主の支配を現実体験します。神の国はその偉大さを人間の言葉で説明して、理屈で納得できればそれでよしというようなものではありません。観念的な正義や平和ではなく、主の力によって実際に確立される正義と平和と喜びです。

2.5 新しい天と地 (黙示 21:1-2、マタ 6:9-13)

将来、神の国の完成の時、「新しい天と地」がやって来ます。キリストが王として圧倒的な愛と力で支配される世界です。そこではサタンは滅ぼされ、もはや存在しません。すべての涙と悲しみは笑いと喜びに変えられ、主が創造された完全な「神の国」が回復されます。

私たちはこの世にあって、罪＝死の力との戦いが続きます。しかし、将来に完成される神の国を地上で先取りして味わい、喜ぶことはできます。神の国は「行く」所ではなく、むしろ私たちの間に「来る」ものなのです。それゆえ、「御国に行けますように」ではなく、「御国が来ますように」と祈るのです。そして、それを先取りして喜びを味わわせてくださるのが聖霊です。

3. 「神の国」は、父、子、聖霊、そして使徒たちの最も大切な教えです

神の国は父なる神の計画の中心であり、子なる神(キリスト)の福音宣教の中心でした。また、聖霊が神の国の働きをなされ、使徒たちもその働きに仕えました。そして、ヨハネは黙示録において、キリストの再臨によって神の国が完成することを告げます。

3.1 「神の国」は父なる神の計画の中心

父なる神の歴史における究極的なゴールは神の国の完成です。主は天地を創造し、目に見えない天の神の国を、目に見える神の国として地上に現されました。エデンの園は、天の神の国がそのまま地上に臨み、主の支配が隅々まで及んでいました。神の国はアダムの反逆によって失われますが、主は即座に神の国を再建する計画を立てられました。神の国は主イエスの十字架と復活によって地上にもたらされ、主を信じる者はその祝福にあずかれるようになりました。

3.2 「神の国」は子なるイエス・キリストのメッセージの主題

(1) イエスのメッセージのテーマは「神の国」 (マタ 4:17、使徒 1:3)

イエスの宣教の第一声は神の国でした。イエスの山上の説教は神の国の祝福と生き方を教え、主の祈りでは「御国が来ますように」と祈るように教えられました。「種蒔き、毒麦、からし種、パン種、畑に隠された宝」などの例え話も、ほとんどが「神の国」について語られたものです。主イエスはよみがえられた後の地上の最後の 40 日間で、最も大切なことを語られたはずですが、そこで語られたのも「神の国」でした。

(2) イエスは「神の国」の到来を奇跡と癒しで示されました (マタ 4:23)

イエスは神の国を語られただけでなく、神の国の到来を、奇跡と癒しで現されました。神の国が来ているところでは、悪霊が追い出され、病気が癒され、罪人の人生が一変し、荒れ狂う自然も従いました。

(3) イエスのことばと行いは、「神の国」に焦点を当てています (マタ 12:28)

主イエスのことばと奇跡のわざは、すべて神の国の到来に焦点が当てられています。神の国という言葉は出て来なくても、悪霊や病気の癒し、弟子たちへの教え、民衆や敵対者との対話、将来への予告など、すべて神の国に焦点を当てて理解されます。

(4) イエスの十字架と復活によって神の国がもたらされました (ロマ 6:4-11)

神の国に入るとは、サタンの支配、つまり、罪と死の支配から、イエスの義と恵みの支配へと完全に移されることです。主権者が変わるのです。神の国への移行を成就したのが、イエス・キリストの十字架と復活です。死からいのちへ、呪いから祝福へ、憎しみから愛へと、私たちを支配するものが変わったのです。

3.3 「神の国」は聖霊によって現される現実の力

(1) 父と子なるキリストが聖霊を送られます (使徒 1:8、9:31)

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」この約束が「使徒の働き」のすべての出来事を導いていきます。「父が遣わす聖霊によって、いよいよ神の国の活動が始まる。そのみわざをあなたがたはこれから見ることになるのだ」と、主は弟子たちに言い残されたのです。その通りに弟子たちの上に聖霊が下り、聖霊によって教会が建て上げられ、聖霊によって教会は前進しました。

(2) 聖霊は教会を用いて「神の国」を拡大されます (Ⅰコリ 4:20、ロマ 14:17)

「神の国はことばにはなく、力にあるのです。」とパウロは言います。パウロはもちろん、神の国を言葉で説明するのですが、実際にその言葉に聖霊の力が働いて、現実のものになっていくというのです。神の国では、義と平和と聖霊の力、聖霊の喜びを体験できるのです。聖霊の働きによって、神の国の福音は、エルサレムからアンテオケ、小アジア、マケドニア、ヨーロッパ、そしてローマへと、どんどん広がっていきました。

3.4 「神の国」は使徒たちのメッセージの主題

(1) 使徒たちは宣教地で「神の国」をテーマに語りました (使徒 19:8、28:30-31)

使徒たちは、主イエスと同じように、神の国に入ることを目的としてメッセージを語り、神の国が来ていることを主のわざによって示しました。使徒パウロは、伝道旅行中に行く先々の会堂で、特にユダヤ人に向けて神の国を中心に語り、彼の宣教はまさに神の国を宣べ伝えることでした。

(2) 使徒たちは書簡でも「神の国」を語っています (Ⅱテモ 4:1-2、Ⅱペテ 1:11)

パウロやペテロは、書簡の中でも神の国について記しています。神の国は人間の努力や説得力にあるのではなく、現実において働く主の力にあるのです。使徒たちは、主がもたらされた神の国の祝福を目に見えるように現し、手紙でもそのことを記しました。そして、次の世代も同じようにして神の国を語り、その祝福とみわざを継承しました。

(3) ヨハネは黙示録で「神の国」の完成を預言しています (黙示 21-22 章)

天では、キリストが父なる神の右の座で大祭司として私たちのために執り成しておられ、地上においては、聖霊が神の国の力を現される時代が続いた後に、終わりの日が来ます。キリストが戻って来られ、サタンを滅ぼし、暗闇の力を一掃して、王としてすべてを治められる日です。以後、主ご自身が神の国の王として、すべてを直接、永遠に支配されます。新しい天と地、新しいエルサレムが来て、神の国が完成されます。

第4章 「神の国」の歴史

1. 旧約聖書における「神の国」

聖書は「神の国」の回復のストーリー、「神の国」と「サタンの国」の戦いの歴史です。

1.1 「神の国」と「サタンの国」の戦いの始まり

(1) エデンの園

①地上における「神の国」 (創世 1:26-28、2:4-9、コロ 1:15-17)

主は天地を創造されたとき、天にある神の国の地上への現れとしてエデンの園を造られました。この地上のすべては神の御子の栄光のために造られました。主は神のかたちに似せて造られた人間を祝福し、地のすべてを支配する者としてエデンの園に置いてくださったのです。そこでは主の語られたことばが治めており、人間には自分で善悪を決めること以外は、すべてが許されていました。

②サタンの国の始まり (創世 3:1-5)

一方、その頃にはサタンの勢力も存在していました。サタンはエデンの園に侵入し、アダムとエバを惑わして地の支配を奪い、エデンの園は消失しました。主が語られたみことばではなく、人間が自分勝手に決めた善悪を主とする地上におけるサタンの国の始まりです。

③「神の国」の回復計画 (創世 3:15)

この時、主は直ちに神の国の回復計画を宣言されました。天地は御子のために造られたため、御子ご自身がサタンの国を打ち破り、天地の支配を回復するシナリオです。それゆえ聖書の歴史は御子キリストを焦点にして展開し、これ以降、神の国とサタンの国の戦いが、歴史の中で繰り広げられていきます。

(2) セツ～エノシュの流れとカインの流れ

①主の御名によって祈る人々による「神の国」の回復とアダムの罪の性質

アダムからカインとアベルが生まれました。サタンは最初の殺人者カインの子孫を使って、神を排除した社会を作り上げます。一方、主はアベルが殺された後、セツとその子エノシュの一族を「主の御名によって祈る人々」とし、神の国を回復しようとされます。しかし、彼らも罪の性質をアダムから引き継いでおり、サタンの国の文化に惹かれ、いつしか地は悪に満ちてしまいます。

②ノアの家族による「神の国」の回復とサタンの勢力

そこで主は、サタンの支配が満ちていた地上を一旦洪水で滅ぼし、生き残らせたノアの家族から神の国の再建を図られます。しかし、ノアの子ハムから出たカナン一族が「我々の町を建てよう」とバベルの塔を建て、神を排除した人間中心のサタンの国を築こうとします。こうして地上はまたもや、サタンの国の文化に取り込まれることになったのです。

1.2 「神の国」の祝福を担う「神の民」イスラエルの創始

アブラハムの選びと祝福の契約 — 「神の国の民」の形成 — (創世 12:1-3)

主は神の国を回復するために、一人の人アブラハムを選んで契約を結ばれ、約束の地を与えました。主はすでに存在していた一民族を選ばれたのではなく、アブラハムとサラという一組の夫婦から新たに「主の民」イスラエルを造り、この民によって地上のすべての民族が祝福されるように定められたのです。この後、神の国を回復する計画はアブラハムとその子孫イスラエル民族へと引き継がれ、イスラエルの地を舞台に展開していくのです。

1.3 「神の国」のひな型としてのイスラエル

(1) モーセによる「祭司の王国」 (出エ 19:5-6)

主はイスラエルに、アジア、ヨーロッパ、アフリカの三大陸を結ぶ重要な地を永遠の所有地として与え、そこに神の国のひな型を建てられます。その最初が、モーセの時代の「祭司の王国」、主が祭司を通して支配される王国でした。主はモーセを通してシナイ山で契約を結び、イスラエルを「祭司の王国」とし、律法を与えて聖別されました。モーセの「祭司の王国」は「祭司」なるキリストが治める神の国(初臨)を示しています。

(2) ダビデによる「王権の神の国」 (Ⅱサム 7:12-13)

次いで、ダビデの時代に、ダビデ王国＝「王権による神の国」が建てられました。それは、キリストが将来、王として支配される神の国(再臨)のひな型です。主はダビデを選んで契約を結び、その王国と王座は永遠に堅く立つと約束されました。また、神の国の王はダビデの家系から出ることが宣言されました。この時(BC1003 頃)、「神の国」の永遠の都エルサレムが建設されます。キリストはダビデの子としてこの世に来てくださいました。

それに対し、サタンは偶像礼拝や異教の風習をイスラエルに侵入させ、神の国を崩壊させようとします。やがてダビデ王国は南北に分裂し(BC931)、北王国はアッシリア(BC722)に、南王国はバビロンに滅ぼされてしまいます(BC586)。その後、イスラエルはペルシャ、ギリシャ、ローマという大帝国内に支配されます。

2. 新約聖書における「神の国」

2.1 キリストによる「神の国」の到来

神の国とサタンの国の戦いは、人となられた御子イエス・キリストとサタンの直接対決の時代に突入します。イエスは、荒野でのサタンの試みに勝利された後、神の国の到来を告げ、3年半にわたって神の国の到来と自分がメシヤ(キリスト)であることを数多くの証拠をもって証明されました。神の国はイエスをメシヤと信じる者たちのただ中に来たのです。そして、十字架と復活によってサタンがもたらす罪と死の力を打ち破り、神の国を確立してくださいました。イエスは十字架と復活によって、神の国の勝利をもたらされたのです。

2.2 旧約と福音書の「神の国」の関係 (ヘブ 5:8-10、マタ 21:9)

旧約に記されているイスラエル王国は、イエス・キリストがもたらされる「神の国」のひな型です。イエスは祭司として、モーセの「祭司の王国」の継承者であり、完成者です。また、イエスは王として、イスラエル国王ダビデの「王権の王国」の継承者であり、完成者です。イエスが語られた神の国は、旧約聖書で預言されていた王国と霊的、社会的、政治的側面においても一致していました。

2.3 キリストを信じる者に与えられる「神の国」(使徒26:18、I コリ 15:56-57、ロマ 6:23)

イエス・キリストの十字架と復活によって、イエスを信じる者はサタンによる闇の支配からの解放、罪と死に対する勝利、永遠のいのちの喜びを体験することができるのです。イエスは、神の国の勝利を体験させるために、聖霊を送ってくださいました。今、私たちが生きるこの時代は、天ではイエスが祭司として私たちのために執り成してください、地上では聖霊が神の国の力を現されます。イエスが天で祭司として支配される神の国が来ているのです。

2.4 ユダヤ人による「神の国」の拒絶 (ロマ 11:11)

イエス・キリストは、イスラエル・ユダヤ人の王としてこの地に来られ、神の国が地上に確立するかどうかは、ユダヤ人がイエスを「ダビデの子」「イスラエルの王」「神の子」「メシヤ」として受け入れるかどうかにかかっていました。しかし、このイエスによる神の国の福音をユダヤ人の律法学者、パリサイ人などの宗教指導者たちは拒絶し、イエスを十字架に架けました。イエスは神の国をユダヤ人に受け取らせるために来られましたが、同時に十字架に架かるためにも来られたのです。この二つの矛盾することが神の摂理であり、ユダヤ人が心を頑なにすることで、神の国の福音は異邦人にも広がることになりました。同時に、神の国の完成はキリストの再臨まで延期されることになりました。

【付録: イエス・キリスト誕生前の準備】

旧約聖書のマラキ書が書き終えられてから新約聖書のストーリーが始まるまでの約 400 年間は、主のことばの記録はありません。しかし、主はその間も御手を動かしておられました。ギリシャ人やローマ帝国といった異邦人による支配の中で、神の国の王キリストを迎える準備が整えられていったのです。

〈ギリシャ人、ローマ帝国支配の時代の歴史的意義〉

・ギリシャ語

地中海・中東地域の諸民族がギリシャ語という共通言語を持つことになり、福音伝道の言語的障害が取り除かれました。新約聖書はギリシャ語で書き残されています。

・交通網

マケドニアのアレクサンドロスの遠征、ローマの軍の遠征で陸路や海路が整っていきました。パウロをはじめとする福音宣教者たちが開かれた陸路や海路で迅速に旅ができるようになったのは、この時代に交通網が整備されていったからなのです。

・ローマの平和

ローマが地中海周辺諸国を平定した後は、その圧倒的な軍事力で戦乱が激減し、比較的平和が保たれることになりました。そのため、使徒たちも安全に旅ができたのです。

・ユダヤ人の会堂シナゴーグ

ユダヤ人の離散により、地中海各地にユダヤ人の居住地域が広がり、礼拝のための会堂が建てられました。パウロは会堂を拠点として、その地域の福音伝道に着手することができました。

・メシヤ(キリスト)渴望 (イザ 9:6-7)

ローマの圧制や社会の腐敗によって、ユダヤ社会にメシヤ待望が強まっていきました。主がかつて彼らに与えられたメシヤの約束を待ち望むようになったのです。こうして、地中海・中東地域にメシヤ登場のための条件が備えられました。このような条件が広域に整った時代は、ローマ時代以前も以後もありません。福音伝道の働きが最も効果的になされていくための下地が整えられた時代でした。そして、ついに時が満ち、メシヤであるイエス・キリストを迎えることになるのです。

第5章 「神の国」とイスラエルと教会

1. 「神の国」とイスラエルと教会

1.1 「神の国」とイスラエル

(1) 主の祝福の基としてのイスラエル (ロマ 11:25-29)

主は、アブラハムと結ばれた永遠の契約(創世記12章)のゆえに、イスラエルを無条件に祝福されます。イスラエルがその祝福を世界に運ぶ「祝福の基」になるという召命は不変なのです。イスラエル民族には重要な役割が主から与えられています。それは「聖書を書き写すこと」「イエス・キリストを世に送り出すこと」、そして「再臨の鍵を開けること」です。つまり、神の国はイスラエル無しには完成しないのです。主はイスラエルを最後まで愛され用いられます。

(2) イスラエルを攻撃するサタン

サタンは全能の主を滅ぼすことはできないので、この契約の民イスラエルを何としても滅ぼすべく、さまざまな方法で攻撃を仕掛けてきます。エステル記に記されているハマンがユダヤ人を絶滅させようとした策略などはその代表的な例です。しかし、イスラエルが本来の「賜物と召命」を取り戻すなら、神の国の計画が前進して、サタンの国は終焉を迎えます。サタンはそれを知っているので、イスラエルの信仰の回復を阻止しようとしているのです。

(3) 1948年イスラエル建国

イエス・キリストの十字架の後、西暦70年にエルサレムはローマ帝国に滅ぼされ、ユダヤ民族は祖国を亡くします。その後、彼らは約1900年間に渡って世界に離散し、キリストを殺した民族として各地で迫害を経験しました。ホロコーストでは約600万人ものユダヤ人が殺され、世界中がユダヤ人へ同情を寄せる世論に後押しされ、「国連パレスチナ分割案」というユダヤ人国家をつくる計画が立てられました。

1948年、国連総会でイスラエル建国が承認され、5月14日、イスラエルは独立し、建国されました。ホロコーストからわずか3年の出来事です。イスラエルは民族的に約束の地に戻って来たのです。聖書のイスラエルに関する預言は必ず成就すること、また、主はイスラエルを決して見捨てないことが現されました。このことは国際的な非難を浴びることもありますが、現在のイスラエルの行為の是非を超えて、聖書が教える主の御心を信じ、イスラエルの祝福と守り、ユダヤ人の救い、エルサレムの平和のために執り成して祈るべきです。

エルサレムの平和のために詩篇122:6-7のみことばを祈りましょう。

1.2 「神の国」と教会 (マタ 16:18-19)

教会はキリストによって神の国の祝福を地上にもたらす権威が与えられており、神の国の実を結ぶ役割を果たします。イエス・キリストは十字架と復活によって、サタンがもたらす罪と死の力を打ち破り、神の国を確立してくださいました。しかし、地上における神の国の戦いは、サタンが最終的に滅ぼされるまで続くことになります。その戦いの拠点となるのは、キリストのからだである教会です。

(1) 初代教会

教会の活動は、五旬節の日に、120 名ほどのユダヤ人の信者たちに聖霊が下ることから始まりました。その日 3 千人が悔い改めて教会に加わり、その数はどんどん増えていきました。みなユダヤ人でした。そして教会は異邦人をも取り込み、ついにアンテオケにユダヤ人と異邦人が一つになった教会が生まれます。本来、教会とはユダヤ人だけの教会でも異邦人だけの教会でもなく、ユダヤ人と異邦人との隔ての壁が打ち壊された教会です。

(2) 異邦人教会によるユダヤ人の迫害の歴史

しかし、ユダヤ人と異邦人は次第に分裂し、2 世紀に異邦人が中心になった教会は、異邦人教会こそがイスラエルに代わる新しいイスラエルであると主張するようになります。こうして、異邦人教会はユダヤ人との関係を断つ方向に進み、ユダヤのルーツからは切り離されてしまいました。

そして、異邦人教会はユダヤ人をキリスト殺しの民族、神に呪われた民とみなすようになり、ユダヤ人迫害に加担していったのです。カトリック教会だけではなく、プロテスタント教会もその迫害の歴史に加わります。ヨーロッパはロシアのポグロム、ナチス・ドイツのホロコーストという大虐殺の時代を経て、今日のユダヤ人迫害にまで至ります。この反ユダヤ主義の火は、現在ヨーロッパを中心に再燃していると言われています。

(3) 異邦人教会の本来の役割

異邦人教会はイスラエルに霊的な負債があります(ロマ 15:27)。主はイスラエルがイエス・キリストを拒否したという失敗を用いて、異邦人である私たちにも救いを与えてくださいました。イスラエルの失敗によって救いが異邦人に及んだのです(ロマ 11:11)。私たちはイエス・キリストの十字架と復活によって、イスラエルの神である主を礼拝し、仕える恵みの中に入れられています。この主から与えられた一方的な恵みに感謝し、主が愛してやまないイスラエルのために執り成すことが本来の役割です。共にみことばの通り主の御心を祈りましょう。

主の御心を覚えて、民数記 6:23-27 のみことばを祈りましょう。

2. 「神の国」の完成

2.1 終わりの日に完成する「神の国」 (ヨハ 14:2-3)

イエス・キリストは、私たちのために天の住まいを用意してくださると語られました。キリストは神の国の確立が再臨の時であることを告げられました。教会は神の国の祝福をこの世の中に拡げていく役割を果たすために、キリストの再臨の日までサタンの支配を打ち破り続けるのです。

2.2 異邦人の完成 (ロマ 11:25-29、マタ 24:14)

聖書には異邦人の完成がなされる時に、イスラエルはみな救われると記されています。父なる神は全世界に福音が宣べ伝えられていくことを忍耐深く待っておられます。この御心を知る私たちは、異邦人の完成とイスラエルの救いのために、共に祈り仕えていきましょう。

2.3 イスラエルの救い (ロマ 11:11-12、マタ 23:39)

イスラエルこそ、主の御心の中心であり、彼らに対する主の約束は変わることがありません。イスラエルは必ず回復されるのです。イスラエル・ユダヤ人は神の国への旅を続けている寄留者であり、必ず神の国の完成に達する日が来るのです。イスラエルが民族的救いを得られなかった失敗は、全世界に福音が宣べ伝えられる異邦人の富となりました。彼らの完成、すなわちイスラエルが民族的に悔い改めてイエス・キリストをメシヤとして信じ受け入れる時に、キリストが王として再びこの地に来られる神の国がもたらされるのです。

2.4 キリストの再臨—千年王国 (黙示 20:1-6)

キリストが再臨されるまでの時代は、キリストは聖霊によって教会と共にいてくださいます。しかし、携挙の時に教会は地から挙げられ、キリストと共にいるようになります。キリストが再臨され、サタンを千年の間閉じ込めて反キリストと偽預言者を滅ぼし、人々はサタンの欺きから解かれます。キリストが王として支配される神の国、「千年王国」がもたらされるのです。

2.5 「神の国」の完成—新天新地、エルサレム到来 (黙示 21:1-3、22:1-2、イザ 60:19-21)

千年の後、サタンが解き放たれ、サタンとの最後の戦いが起こります。ここでサタンは完全に滅ぼされ、サタンとそれに従う者たちは永遠の炎で焼かれることになります。また、古い天と地は過ぎ去り、新しい天と地、新しいエルサレムが神の都として到来することが聖書に預言されています。この都では主ご自身が光となられ、いのちの水の川が流れています。この天の幕屋において、主が人とともに住み、人は主の民となるのです。聖書のことばはすべて成就されることを信じ、神の国を完成される主の御名を賛美します。アーメン。

第6章 「契約」総論

1. 「契約」とは

主と人との契約は英語では「カベナント Covenant」であり、人と人との契約「コントラクト Contract」とは明確に違う言葉が使われています。聖書は主が人と自然との間に結ばれた契約の書です。契約は主ご自身の愛と義に基づいているので、聖書の神は契約の神なのです。人間が不忠実であっても、主は契約通りに人と歴史を動かし、神の国を完成されます。イスラエルは「契約の民」であり、私たち異邦人もキリストを通して「新しい契約」に入れられた「契約の民」です。主と契約を結ぶとは、主と婚姻関係に入るようなものです。イスラエルが主の「妻」と呼ばれ、教会が「キリストの花嫁」と言われています。

1.1 「旧約」と「新約」は一つ

「旧約聖書」には、すべての契約の内容が記されています。そして、「新約聖書」には、キリストが最終的にすべての契約を成就されたこと、あるいは、これから成就されることが記されています。およそ4千年前に結ばれたアブラハム契約は、聖書全体の根幹となる契約で、今日も有効な契約です。ダビデ契約と新しい契約も同様に今日も有効な契約です。それゆえ、メシヤニック・ジュー（イエスをメシヤと信じるユダヤ人）の人々は、旧約聖書と新約聖書という分け方をせずに、創世記から黙示録まで一貫した聖書として考えています。

1.2 「契約」の分類

契約の分類の一つとして、「行いの契約」と「恵みの契約」があります。

(1) 「行いの契約」と「恵みの契約」

①行いの契約

「行いの契約」とは、人間の行いが義と祝福の条件となる契約で、それはアダム契約だけです。アダム契約は、神の姿に造られた完全な人間が、完全な行いで守る行いの契約でした。しかし、罪が入った後は、人は神から切り離され、主の恵みによってしか救われない者となりました。

②恵みの契約

アダム契約の後に結ばれたすべての契約は、ただ主の一方的な恵みによってのみ成就される「恵みの契約」です。不完全な人間が、自らの行いで神と完全な関係（義、救い）を保つことはできません。ですから、主が一方的な恵みによって人々を義とし、また、祝福してくださるという契約が必要なのです。

(2) 「条件付きの契約」と「無条件契約」

恵みの契約は、「条件付きの契約」と「無条件の契約」の二つに分かれます。

①条件付きの契約

「条件付きの契約」はシナイ契約です。イスラエルが主に従えば祝福の基として聖別されて用いられ、反逆すればその祝福から外されるという契約です。しかし、一旦そこから外されても、悔い改めれば主は祝福を回復してくださいます(モアブ契約)。

②無条件契約

「無条件の契約」は、人の行いにかかわらず、主が一方的に無条件に約束を成就してくださる契約(アブラハム契約、ダビデ契約、新しい契約等)です。

2. 「契約」の意味と役割

『たとい山々が移り、丘が動いても、わたしの変わらぬ愛はあなたから移らず、わたしの平和の契約は動かない』とあなたをあわれむ主は仰せられる。(イザ 54:10)」聖書の歴史は「契約」を軸として展開し、詩歌は「契約」に基づいて歌われ、預言は「契約」に沿ってなされ、「契約」通りに成就していきます。

2.1 「契約」は神と被造物（自然、動植物、人）との間で結ばれたものです

主は天地創造の契約によってこの世界を造られたので、自然界は、創造の契約に従って存在し、運動しています。

主はアダム、アブラハム、モーセ、ダビデなど一人の人を選び、その人物が代表するグループ全体と契約を結ばれ、歴史はそれらの契約に沿って展開してきました。イスラエルの興亡、キリストの十字架と復活、人類の救いも、終末の出来事も、神の国も「契約」の中にあります。「契約」には主の永遠の計画が示されているのです。

2.2 「契約」は神の愛に基づきます

契約は主の一方的な無償の愛に基づいています。主は人類をアダムの罪の呪いから救い出し、いのちを与え、祝福されるお方です。主はその愛を人類に注ぎ出すために、アブラハム、モーセ、ダビデと契約を結び、キリストを新しい契約のためのいけにえとされました。

2.3 「契約」は変わりません (レビ 26:42-44)

聖書の契約は聖なる主がイニシアチブ(主導権)を取って結ばれるもので、それは厳粛であり、変わらないものです。譲歩や妥協はなく、すべて成就されるべきものです。主は常に契約に忠実であられました。聖書はそれを歴史的に証する書でもあります。

3. 「契約」の方法

3.1 「契約」を結ぶ時には血が流され、血はいのちを象徴します

「なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。(レビ 17:11)」

3.2 「契約」は人間の都合や状況の変化で変更できません

ヘブル語で「契約をする」を直訳すると、「契約を切る(カラット・ベリット)」となり、動物を半分に切ることによって契約を交わし、戻せないことを意味しました。

3.3 「契約」を破る者は、真っ二つに切り裂かれ、呪われます(エレ 34:18)

アブラハム契約では牛と山羊と羊が真っ二つに切り裂かれ、血が流されました。また、シナイ契約でも牛の血が流され、新しい契約ではキリストが十字架で罪人の身代わりとなって切り裂かれ、その流された血によって契約が結ばれました。

4. 「契約」はすべての人に関係があります

「契約」はイスラエル人だけでなく、人類全体に関わるものです。それは、国家の代表が他国と条約を結べば、国民すべてがその条約に服することになるのと同様です。つまり、聖書の「契約」は、現代の私たちにとっても人生の生き方や死後の行き先を決定する重大なものです。罪の赦し、死後の復活、永遠の祝福は、私たちがキリストを信じ、主と契約を結ぶかどうかにかかっています。

第7章 聖書に記された「契約」

1. 天地創造の契約からノア契約まで

1.1 天地創造の契約

聖書の神、主は契約の神です。契約を結び、関係をつくり上げていかれる神です。父、子、聖霊は、一つの神として神の国の計画を実行に移されます。

(1) 天と地は父、子、聖霊なる神の契約により創造されました(コロ1:16、エレ33:20-26)

主は、天地万物を御子キリストのために創造されました。そして契約によって、天地万物をつかさどるように定められました。主は「天と地との諸法則」のことを、「昼と結んだわたしの契約と、夜と結んだわたしの契約」と呼んでおられます。すなわち、科学によって発見された自然法則は、主が宇宙自然と結ばれた契約なのです。

(2) 創造された世界は契約によって動きます (詩篇 69:34)

契約の主は、天地万物を契約、すなわち「天と地との諸法則」に基づいて動かされます。愛と恵みに富む主が創造された天と地は、意味と目的と秩序といつくしみと美しさをもち、豊かに実を結ぶ世界です。それゆえ、天と地と海とその中に動くすべてのものは、主をほめたたえるのです。また、主ご自身が「天と地との諸法則」に従って宇宙自然をつかさどっておられるのであって、「天と地との諸法則」が主を支配することはありません。従って、自然界には主の御心に沿った奇跡が起こり得るのです。

1.2 アダム契約

主は、最初の人アダムを「神のかたち」に創造し、エデンの園(神の国)に置き、契約を結ばれました。アダムは、自分から出る全人類を代表して、罪人ではなく完全な人として主と契約を結びました。従って、アダム一人がしたことは全人類がしたことになります。

【中心聖句】創世 1:28-29、2:16-17

(1) 主の約束 (創世 1:28-29、2:16)

この契約は、第一に祝福の約束です。人は地を満たすほどに増えるようになります。第二に、自由の約束です。主は人に「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。(創世 2:16)」と言われました。つまり、人は、主が創造された世界の豊かさを、五感で「思いのまま」楽しむことが許されたのです。主の祝福を選び取っていく自由です。

(2) 人間の責任 (創世 2:17)

そして、地を従え、生き物を支配する責任が人に付与されました。人間は、義と愛によって世界を支配する主の代理として、地を正しく支配し、秩序があるように管理する役割を果たすのです。そうすることで、主の栄光を現すことが期待されました。それは、自然を抑圧し搾取するということではありません。主の愛と義といつくしみをもって治めるのです。しかし、この契約には主から重大な条件が付けられました。「善悪の知識の木からは取って食べてはならない。(創世 2:17)」すなわち、人間が、主の定めとは別に善悪の基準を設けてはならない、すべて主の基準のうちにとどまりなさい、ということです。「それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ」、この契約を破るなら「死」です。

(3) 行いの契約

アダムの契約は唯一の「行いの契約」です。罪人ではなく、「完全な人」と結ばれた契約であるゆえ、完全な行いによって「いのち(主との正しい関係＝義)」を保つのです。正しく行う(善悪を知る木の実を食べない)ことで、主の祝福を受け続けますが、ただ一度の違反の行いが死、神との断絶をもたらし、アダムの義は崩壊することになります。しかし、行いの契約と言っても、行いによって救いを獲得するという契約ではありません。アダムはもともと義だからです。ですから、主との完全な関係を保つための契約と言った方がいいでしょう。この契約を一旦破ってしまえば、即座に悔い改めたとしても、元の完全な義には戻れません。

アダムがこの契約を破った後は、すべての人が罪＝死の力に服し、いのちの主から切り離され、主のあわれみと恵みによらない限り、義と認められることはなくなります。

1.3 ノア契約

この契約は、主がノアと箱舟で生き延びたすべての生き物との間に結ばれた契約です。

【中心聖句】 創世 9:9-17

主はノアに、「もはや大洪水が地を滅ぼすことはない」と約束されました。ノアは全焼のいけにえを捧げ、主は虹を契約のしるしとされました。そして、再び「生めよ。ふえよ。」と祝福してくださったのです。そして、この契約によって、ノアから新たな人類が始まります。

主は、ノアとその子孫から神の国の再興を計られましたが、ノアの子らもアダムの罪の性質を引き継いでいたため、ノアの子ハムの子孫の中から神の国に対抗する勢力が再登場してしまいました。神の国の再興の計画が具体化されるには、人類の罪を完全に超える主のあわれみと恵みによる無条件の祝福の契約が必要です。

2. アブラハム契約からダビデ契約まで

2.1 アブラハム契約

アブラハム契約は、約 4 千年前、主がアブラハムとその子孫との間に結ばれた契約です。アブラハム契約は「祝福の契約」であり、そして、アブラハムの子孫として祝福されたイスラエルが、世界の諸民族の「祝福の源」となるという契約です。

【中心聖句】創世 12:1-3、13:14-17、15:5-18、17:1-17

(1) アブラハム契約の内容

①主が「アブラハムとその子孫」を無条件かつ永遠に祝福する

- ・国民の約束 アブラハムの子孫の数を増やし、大いなる国民とする
- ・土地の約束 アブラハムの子孫にカナンの地を永遠の所有地として与える
- ・王国の約束 アブラハムの子孫から王が出る

イスラエルがやがて「神の国」のひな型となるための、「国民」「土地」「王国(統治)」、現代で言えば、「国民」「領土」「主権」という国家の三要素が約束されました。

②アブラハムの子孫が世界の諸国民の祝福の源となる

(2) アブラハム契約の意味と目的

①アダムの子孫により呪われた世界を祝福する

アブラハム契約の目的は、アダムの子孫によって失われた神の国の祝福を回復し、その祝福を諸国民にもたらすことにあります。この契約が聖書全体の流れを導き、人類の歴史を方向付けています。罪によって死に定められた人類に、救いと永遠のいのちを約束します。罪と死から救い出し、神の国を地上に実現し、やがては新しい天と地をもたらすという契約です。

②アブラハムから「主の民」イスラエル民族をつくる

この契約によって、アブラハムとサラから「主の民」イスラエルが、主ご自身のため、そして世界のために造られました。

③イスラエルを通し、全人類の救い主キリストが来られる(創世 3:15、22:17-18)

この契約によって、全人類の救い主が遣わされます。主は、創世記 3:15 でサタンに

聖書の三つのテーマ

対する勝利宣言をなさいました。サタンに勝利する「女の子孫(キリスト)」がアブラハムの子孫を通して人類に送られるということです。こうして、すべての国々が、アブラハムとその子孫(キリスト)によって主の祝福を見出すことになります。

④キリストによってもう一つの「主の民」教会が建てられる (マタ 21:43、28:18-20)

イスラエル・ユダヤ人とともに、異邦人もキリストを信じる信仰によってアブラハムの子孫とされ、神の国の祝福を全人類に運ぶ使命を受けました。

⑤終わりの日にキリストの再臨によって完全に成就される

その日、キリストを信じるすべての人が、「神の国」の祝福を受けます。

(3) アブラハム契約の継承者 (ロマ 11:16-21、エペ 2:18-19)

アブラハム契約を現在も継承しているのは、次の二つの人々です。

- ①血による子孫 : アブラハム・イサク・ヤコブの子孫、イスラエル民族
- ②信仰による子孫 : 異邦人教会、クリスチャン

異邦人の信者は、イスラエルに接ぎ木され、信仰によるアブラハムの子孫、主の民となりました。つまり、アブラハムの祝福をイスラエルを通して受ける者になったということです。ユダヤ人とクリスチャンはともに神の国の民、神の家族なのです。両者はやがてキリストによって一つにされ、アブラハム契約成就の役割を一緒に果たすようになります。しかし、血による子孫と信仰による子孫を混同してはいけません。聖書には異邦人をイスラエルとみなす言及はないからです。ですから、異邦人の信者には、それぞれが置かれている地で「イエスは主」と宣言して執り成し祈るだけでなく、ユダヤ人との和解に努め、ユダヤ人がイエスをメシヤとして受け入れるように祈り続ける役割が与えられているのです。

(4) 求められるのは信仰

①信仰によって義とされる (創世 15:6)

「彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」

②諸民族もキリストを信じることで「アブラハムの子孫」となり、祝福の源となる (ガラ 3:7-9)

「ですから、信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい。聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、「あなたによってすべての国民が祝福される。」と前もって福音を告げたのです。…」

2.2 シナイ契約（モーセを通して結ばれた契約）

シナイ契約は、約3千5百年前、主がイスラエルの民をエジプトから救い出し、シナイの荒野に連れて来られた時に、ホレブ山でモーセを通してイスラエルの民と結ばれました。シナイ契約は、律法による「聖別の契約」です。律法によってイスラエルを「主の民」として聖別し、諸民族の「祝福の源」にふさわしく整えるための契約です。また、シナイ契約は「祝福と呪いの契約」です。

【中心聖句】出エ 19:5-6、申命 11:26-32、レビ 26 章

(1) シナイ契約の内容

①主がイスラエルの神となり、イスラエルは聖別され「祭司の王国」となります
主はイスラエルを「主の宝」として選ばれ、「祭司の王国」として選ばれました。イスラエルは、諸国民にアブラハム契約の祝福をもたらし、諸国民のために主に執り成しをする祭司としての役割を与えられました。諸国民の中から特別に選り分けられた「聖なる国民」とされたのです。

②イスラエルに律法が与えられます（レビ 26:1-3）

主はイスラエルに律法を与えました。イスラエル王国の法律です。イスラエルの民には主から律法（主の教え）が与えられました。イスラエルが律法を守れば祝福され、平和と繁栄を保ち続けることができ、守らなければ災いと滅びが臨むことになりました。律法はヘブル語でトーラーと言い、「主の教え」「御教え」「指し示す」という意味があります。雇用主と被雇用主との間に結ばれた契約のようなものではなく、父と子の間の約束事、父から子に対する愛のこもった教えのようなものです。

(2) シナイ契約の意味と目的

①イスラエルは律法を守ることで祝福され、「祭司の王国」の務めを果たします（レビ 21:6）
「主の宝」とされたイスラエルは、律法を守ることで「祭司の王国」として主と諸国民との間に立つことができました。イスラエルが主と諸民族の間に立ち、祭司の務めを果たし、主とイスラエルの間にはレビ族が祭司として立ち、イスラエルを聖別しました。祭司がその務めを果たすためには、祭司自身が聖でなければならず、イスラエルが祭司の王国としての役割を果たすためには、イスラエルは聖でなければならなかったのです。

②永遠の契約ではありません（ヘブ 8:13）

シナイ契約は永遠の契約ではありませんでした。イスラエルがシナイ契約を破ることになるので、シナイ契約を完全に成就する方が現れれば、消えるものであり、主は新しい契約を用意されるのです。シナイ契約は、イスラエルに律法を完全に成就するメシヤを待ち望ませました。

(3) アブラハム契約との関係

①シナイ契約は罪を明確にします (ロマ 5:13)

アブラハム契約は民の罪を指し示すことができませんでしたが、シナイ契約は罪を明確にするものでした。

②シナイ契約はアブラハム契約の約束を無効にするわけではありません

アブラハム契約は恵みの契約であり、シナイ契約も同じ恵みの中で結ばれました。アブラハム契約によるイスラエル民族への祝福は永遠不変です。アブラハムの祝福はイスラエルに無条件に与えられています。シナイ契約は条件付きの契約でしたが、もしイスラエルが主に逆らっていても、アブラハムの祝福そのものが消えることはないのです。この2つの契約がともにイスラエルの歴史の展開軸となるのです。

(4) 求められるのは信仰です

①主への愛と信仰を行いで示す契約

シナイ契約も恵みの契約であり、「行いによって義とされる」契約ではありません。

②律法は救いの条件ではありません

律法は、主が聖であることを示し、聖なる主と正しい関係を保つためのきよさの基準を示すものです。ここで気をつけたいことは、律法を守ることが救いの条件ではないということです。イスラエルは「奴隷の地」エジプトから、「過越の羊の血」によって救われ、「水」(葦の海)をくぐった後、シナイで律法を授かりました。つまり、律法は救われた民に与えられたのであり、律法を守ったことによって救われたものではありません。クリスチャンが、罪の奴隷から十字架の血によって救い出され、洗礼を受けた後にキリストの新しい戒めを受けるのと同じです。旧約においても新約においても、イスラエル人も異邦人も、主の恵みと信仰によって救われるのです。

(5) シナイの律法はキリストによって成就されます

①律法の役割 (ガラ 3:23-24、I テモ 1:9-10、ロマ 2:14-15)

律法は人間の罪性を示し、罪を罪として明確にすることで、罪人をキリストに導く「養育係」の役割を果たしていると聖書は言っています。律法は律法を無視する人のためにあるのです。律法を持たない異邦人の場合は、心に記された律法(良心)によって、初めて十字架の必要性が分かります。

②キリストは律法の行いによる義を成し遂げられました

2.3 モアブ契約（モーセを通して結ばれた契約）

モアブ契約は「悔い改めによる祝福の回復の契約」です。主がモアブの荒野でモーセを通してイスラエルと結ばれました（申命記 30 章）。モアブ契約は、神の国の民を建て直す契約です。

【中心聖句】 申命 29:1、30:1-10

(1) モアブ契約の内容

イスラエルは、不信仰によって土地から追われたとしても、将来必ず悔い改め、その結果、イスラエルは祝福を回復し、再び土地を所有し、国家として繁栄することが約束されました。

(2) モアブ契約の意味と目的

①モアブ契約はアブラハム契約とシナイ契約をつなぐ「悔い改めの契約」

アブラハム契約は、無条件で永遠の祝福を約束しています。一方、シナイ契約は、従順には祝福、不従順には災いをもたらすという条件付きの約束です。モアブ契約は、不従順のために災いを受けても、悔い改めるなら祝福は回復されるという約束であり、再び諸民族を祝福する源となることができます。アブラハム契約とシナイ契約をつなぐ契約なのです。

②モアブ契約はイスラエルの歴史の展開を語ります

イスラエルの歴史は主に反逆し、主の裁きを受け、苦しみ、悔い改め、祝福を回復することの繰り返しでした。イスラエルにとって、悔い改めは祝福されるための重要なポイントなのです。悔い改めは恵みです。イスラエルは恵みによって悔い改めに導かれたのです。その意味では、モアブ契約を理解しないでは、イスラエルの歴史を理解することはできません。

③モアブ契約はキリストの福音宣教の土台です

モアブ契約はイスラエルばかりではなく、異邦人にも与えられました（使徒 11:8）。悔い改めによる祝福の回復を約束するこの契約があるので、私たちは大胆にキリストの福音をどのような人々にも伝えていくことができるのです。

(3) 求められるのは信仰です

行いの失敗（罪）を償うために求められるのは、悔い改めによって表される信仰です。行いの失敗は、行いによって償うことはできません。

2.4 ダビデ契約

ダビデ契約は約 3 千年前、ダビデ王国が確立した時代、主とダビデとの間に結ばれた「永遠の神の国の契約」です。ダビデ契約は、ダビデの子孫から神の国の王が出ることを約束しました。

【中心聖句】Ⅱサム 7:9-16、Ⅰ歴代 17:7-14

(1) ダビデ契約の内容

①ダビデの子孫から出てくる者が、王国を永遠に確立します

ダビデ契約により、アブラハム契約のすべての祝福がダビデの家系に託されました。

②ダビデ王国は永遠に続きます

ダビデ王国は神の国のひな型であり、王座は権威を示しています。シナイ契約は「祭司による神の国(支配)」でした。ダビデ契約は「王による神の国(支配)」です。

アブラハム契約によって約束された「神の国」のひな型となるための「国民」「土地」「王国(統治)」という国家の三要素が成就したのがダビデ王国です。

(2) ダビデ契約の意味と目的

①ダビデの家系からメシヤが登場します (マタ 1:1、21:9)

メシヤはダビデの血筋を継ぐ者であり、「ダビデの子」として登場することになるのです。イエス・キリストは「ダビデの根、また子孫、輝く明けの明星」であり、「ダビデの子」として来られるキリストが、神の国(ダビデ王国)を回復するのです。このメシヤを受け入れることを通して、主が治められる永遠の神の国に入ることができるのです。

②無条件に成就します (Ⅱ歴代 21:7、Ⅱサム 7:13、16、23:5)

無条件かつ永遠の契約なので、王や国民の背信にもかかわらず、この契約に基づいてイスラエルは何度も回復されています。

③メシヤはご自分が治める王国を必ずもたします(Ⅱサム 7:16、イザ 55:3-5)

諸国民はダビデの子イエス・キリストによって祝福され、彼のところに集まって来ます。ダビデの子キリストが支配される神の国は、キリストの十字架の贖いによって完成しており、イスラエルから始まって全世界に拡大し、キリストが再び来られるときに完成し、その王国は永遠に続くのです。

(3) ダビデ契約と他の契約との関係

① アブラハム契約との関係

ダビデ契約はアブラハム契約の延長線上にあり、アブラハムの祝福が、神の国の祝福としてダビデの家系に託されました。アブラハムから王が出て、約束の地カナンにダビデ王国が実現しました。そして、アブラハムの子孫、イスラエルを通して神の国の祝福が全世界へと拡がりました。

② シナイ契約との関係 (I 列王 2:4)

ダビデの家系がどのように歩むかについては、モーセを通して結ばれたシナイ契約の祝福とのろいの条件によります。イスラエルに与えられた律法を守るならば聖さが保たれ、祝福の源としての役割を果たすことができ、イスラエルの民が主に従わなければ、ダビデの子孫であっても王座から断たれます。

③ モアブ契約との関係

イスラエルの民が主の教えに背き、逆らったとしても、イスラエルの民が心を尽くして悔い改め、主の御声に聞き従うならば、モアブ契約によってアブラハム契約とシナイ契約に立ち返り、イスラエルと諸国を祝福する祭司の王国としての使命に立ち返りました。

④ 新しい契約との関係

ダビデの王国はイスラエルの背信によって一旦途絶えますが、ダビデの子孫として来られたイエス・キリストが「ダビデへの変わらない愛の契約」として十字架の上でご自身の血を流し、新しい契約を成就し、ダビデ王国の復興を宣言してくださいました。ダビデ王国はキリストにあって永遠の王国なのです。イスラエルも異邦人も、まことのメシヤなるキリストを信じ受け入れることによって、主が治められる永遠の神の国に入ることができるのです。

3. 新しい契約

新しい契約は、旧約聖書でエレミヤとエゼキエルによって預言された「イスラエルと王国の回復の契約」また「永遠のいのちの契約」です。神の御子イエス・キリストは最後の晩餐の席で「新しい契約」の成就を宣言され、ゴルゴダの十字架の上で契約の血を流してくださいました。

【中心聖句】 エレ 31:31-34、エゼ 36:24-28、ヘブ 9:11-15

(1) 新しい契約の内容

①イスラエルへの回復の約束(民族と土地と王国の回復)(エレ 32:37、31:33、エゼ 37:24-26)

新しい契約は、第一に主がイスラエル民族と結ばれた契約です。国外に離散したイスラエルの民を祖国に帰還させ、国土を回復し平安を与える約束です。

また、シナイ契約による「イスラエルを聖別し、永遠に主の民とされる約束」を更新する契約です。モーセの律法は、主の義がどれほど高い水準であるかを示していますが、それを実行する力は与えられませんでした。一方、新しい契約では、義人にふさわしい生き方を実践するための力が聖霊によって与えられ、イスラエルが霊的に再生されることが約束されています。「わたしのしもべダビデ」が王となるとあり、「ダビデ」とはその子孫キリストを指しています。キリストによってイスラエルに神の国がもたらされ、エルサレムが「神の王国」の都として復興され、神殿(聖所)が再建され、永遠に礼拝の中心となることが約束されました。

②キリストを信じるすべての民族への約束 (ヘブ 9:12、エレ 31:33-34)

第二に、ユダヤ人だけでなく、異邦人も、キリストを信じる者はすべて、恵みによって永遠のいのちが与えられる契約です。私たちはキリストが十字架で流された血によって永遠の贖いを受け、すべての罪が赦されました。そして、主は罪を二度と思い出されないのです。また、主はキリストを信じる一人ひとりに「新しい心」「新しい霊」を授け、主の霊である聖霊によって、個人が直接的に主を知ることができるようにしてくださいました。そして、終わりの日にキリストが再臨し、神の国が完成することが約束されました。

(2) 新しい契約の意味と目的

①神と人との関係の完全な回復 (ヨハ 3:16、ガラ 2:16)

新しい契約は、神と人との和解の契約であり、アダムがもたらした「死と呪い」から解放します。そして、キリストによって神とのつながり、すなわち永遠のいのちを持つ恵み

聖書の三つのテーマ

を受け取ることができるようになりました。

また、新しい契約によって、律法を完全に成就したキリストの義を、信仰によって受け取ることができるようになりました。キリストはもともと義なるお方です。律法を守ることによって義とされたのではなく、律法を一度も違反することなく、義を守られたのです。しかし、キリストが律法を守られたので信じる私たちが救われるのではありません。その義なるお方がいけにえとして十字架にかかって身代わりとなられたので、信じる私たちが救われるのです。キリストを信じる者は誰でも罪を赦され、永遠のいのちを受けます。この契約以前、主は代表者を通してご自身を現されました。新しい契約によって、主は救いの保証として聖霊を与えてくださり、信じる一人ひとりに聖霊が宿ったのです。

②諸契約の成就

新しい契約はこれまで学んだすべての契約を成就する契約です。

・ アブラハム契約の成就

十字架により、すべての人が「救い」という永遠の祝福にあずかれるようになりました。アブラハムの子孫を通じてすべての民族が祝福を受けるという約束が成就されました。異邦人教会もアブラハムの祝福の源となることができるのです。

・ シナイ契約の成就 (ヘブ 8:7-12、マタ 5:17-18、ロマ 7:6)

キリストは、イスラエルの子孫として主に完全に従うことにより律法を成就されました。キリストを信じる者はキリストの義をいただき、王である祭司としての務めをすることができます。シナイ契約には欠けがありましたが、それを新しい契約は覆います。新しい契約によってシナイ契約は成就され、完了しました。

・ モアブ契約の成就

新しい契約において、罪の赦しを得させる悔い改めとして成就され、悔い改めが神の国に入る条件として示されました。

・ ダビデ契約の成就

キリストはダビデの子として来られ、信じる者に神の国をもたらされました。新しい契約は、キリストがダビデの王国と王座の継承者として永遠に神の国を確立することを保証しています。

③イスラエルと異邦人が一つになり、神の国が完成します

(ガラ 3:7、ロマ 11:25-29、エペ 2:11-19)

新しい契約は神の国の到来と、未来における神の国の完成を告げる契約です。

異邦人もキリストを信じることで、「信仰によるアブラハムの子孫」とされました。異邦人教会も、アブラハムの子孫として「主の民」となり、「アブラハムの祝福」の源となります。

終わりの日には、「血族によるアブラハムの子孫」であるイスラエルも悔い改め、ナザレのイエスを信じて救われます。ユダヤ人が国土と信仰を回復し、アブラハム契約によって受けた主の民としての召命と賜物を理解するようになります。ユダヤ人も異邦人もキリストによって一つにされ、神の家族になります。それは、契約の完全成就の日であり、神の国の完成の時です。私たち異邦人教会は、ユダヤ人との和解、ユダヤ人と異邦人が一つにされるように願い、祈り、行動していきましょう。

(3) 新しい契約の特徴

①永遠の契約 (エレ 32:40、ヘブ 9:12、ヘブ 13:20)

新しい契約は、主とイスラエルの永遠の平和の契約です。

②無条件の契約 (ヨハ 6:47、ロマ 3:24)

契約の内容は、主が終わりの日にすべて成就されます。

行いによらず、信じるだけで罪が赦され、永遠のいのちを与えられます。

(4) 新しい契約の成立と実現

①新しい契約は「イスラエルの家とユダの家」に対して結ばれます (エレ 31:31)

新しい契約は、第一にイスラエル民族と結ばれたものです。そのため、契約の祝福はまずイスラエルに与えられ、そしてイスラエルを通して異邦人に及ぶものです。

②新しい契約はキリストによって結ばれ、聖霊によって保証されます

(ヘブ 9:15、ロマ 2:29、6:4、エペ 1:13-14)

新しい契約はキリストの十字架の血によって結ばれました。キリストの血は、罪と呪いを取り除く血であると同時に、新しい契約を結ぶ血です。キリストは新しい契約の仲介者となってくださいました。信者のいのちを贖う血であるだけでなく、その個人を教会(キリストのからだ)につなぐ血です。つまり、信じる者は契約によってキリストのからだの一部となります。

信じる者は、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られました。それは、キリストが死者の中からよみがえられたように、新しいいのちに生きる者となるためなのです。主は、信じる者の心に割礼を与え、神の国を受け継ぐ保証である聖霊をあたえてくださり、聖霊によって生きる者としてくださったのです。このことも新しい契約の実現です。

4. 聖書に記された「契約」まとめ

主は、「神の国」をこの地に再建する計画を「契約」に基づいて実行されます。また、主は契約通りに人と歴史を動かしておられます。主は、私たち一人ひとりの個人的な祈りと願いも聞いてくださるお方ですが、契約に基づいてすべてを導かれる主であることを決して忘れてはなりません。私たちは、素晴らしい「神の国」と、その神の国をもたらす「契約」、その契約を成就される「イエス・キリスト」を知る者とされていることを感謝し、「御国が来ますように、御心がなりますように」と祈りましょう。

(1) アブラハム契約 (創世 12:1-3、13:14-17、15:5-18、17:1-17)

アブラハム契約は、「祝福の契約」です。アブラハムとその子孫イスラエルに対し、「国民」「土地」「王国」を与えるという無条件の祝福の契約です。そして、祝福されたイスラエルが、「地上のすべての民族」の祝福の源となるという永遠の契約です(創世 12:1-3)。主のみことば、唯一まことの主なる神、救い主イエス・キリスト、聖霊、教会などのすべての祝福は、イスラエルを通して全人類にもたらされることになりました。私たち異邦人もキリストを信じることで、信仰によるアブラハムの子孫となり、この祝福の契約の中に入れられます。

(2) シナイ契約 (出エ 19:5-6、申命 11:26-32、レビ 26 章)

シナイ契約は、「聖別の契約」です。主の恵みによってエジプトの奴隷状態から救い出されたイスラエルが、トーラー(律法)によって他の民族から聖別され、「祭司の王国、聖なる国民(出エ 19:6)」となるという契約です。この契約によって、イスラエルは聖なる祭司として、アブラハム契約の祝福を地上のすべての民族にもたらすことができるのです。

また、シナイ契約は、「祝福と呪いの契約」でもあります。イスラエルが律法を守れば祝福され、「祭司の王国」として祝福と執り成しの働きができますが、守らなければ祝福を失い、呪いを受け、祭司の働きができなくなります。

(3) モアブ契約 (申命 29:1、30:1-10)

モアブ契約は、「悔い改めによる祝福の回復の契約」です。主に反逆し、災いを受けても、悔い改めるならアブラハムの祝福が回復されるという契約です(申命 30:1-20)。モアブ契約は、アブラハム契約とシナイ契約をつなぐ契約です。イスラエル人も罪人ですから、律法を破り、罪を犯します。聖さを失うと祝福の源となることができません。その聖さを回復するために、モアブ契約が与えられているのです。この契約は無条件の恵みの契約であり、イスラエルが主に逆らっても悔い改める日が必ず来ると、主は約束されています。

聖書の三つのテーマ

(4) ダビデ契約 (Ⅱサム 7:9-16、Ⅰ歴代 17:7-14)

ダビデ契約は、「永遠の神の国の契約」です。主は、ダビデによってエルサレムを都とする王国を立て、ダビデと契約を結び、ダビデの家系から神の国の王キリストが出ることを約束されました。

(5) 新しい契約 (エレ 31:31-34、エゼ 36:24-28、ヘブ 9:11-15)

新しい契約は、「イスラエルの回復の契約」です。イスラエルの家とユダの家とに対して与えられたイスラエルの回復の契約です(エレ 31:31-34)。シナイ契約を破り、世界に離散したイスラエルが再び帰還し、聖別され、永遠に主の民となり、ダビデの家系から出て来るキリストが、永遠の神の国をもたらすという約束です。

また、新しい契約は、「永遠のいのちの契約」です。イスラエルを含めた全人類に対し、神の子を信じる者には、「新しい心」「新しい霊」が与えられ、直接的に「主を知る」ことができるようになり、罪は赦されて二度と思い出されず、良心がきよめられるのです。神の御子キリストの血によって永遠の贖いを受け、罪と死の呪いから解放され、永遠のいのちが与えられ、その保証として聖霊が与えられます。私たち異邦人も信仰によって「アブラハムの子孫」となり、神の国の祝福を受け取ります。

この新しい契約によって、教会も神の国の祝福を世界に広げる「王である祭司」としての務めを受けています。クリスチャン一人ひとりが祭司です。主が与えられた新しい戒め、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。(ヨハ 13:34)」という教えに従うことで、世界の祝福の基となることができるのです。

第8章 「契約」とイスラエルと教会

1. 「契約」とイスラエルと教会

主は人を偏って見るお方ではありません。主は契約を通してご自身の計画を成就するために、それぞれの民に役割を与えておられます。その主要な役割を与えられているのがイスラエル民族です。そして、異邦人教会にも同じように重要な役割があります。

1.1 「契約」とイスラエル

(1) イスラエルは「契約」によって創り出された民族です

イスラエルは、国土や歴史や文化で一つになった民族ではなく、「主がともにおられる」という約束が、彼らを「主の民」として形成しました。「契約」が主の選びの民の一つとしたのです。

(2) イスラエルは「契約」によって無条件かつ永遠に神の民です

イスラエルは、主ご自身がその責任において結んでくださった「契約」によって、無条件かつ永遠に主の民です。

(3) イスラエルは「契約」によって諸国民に祝福をもたらす使命を受けています

イスラエルは、神のことばを聖書に記し伝え、救い主イエス・キリストを世に送り出し、教会を生み出す働きのために用いられました。

(4) イスラエルにとって信仰とは契約そのものです

イスラエルにとってアブラハム、モーセ、ダビデ、イエス・キリストの歴史は無関係ではなく、すべてがつながっています。イエス・キリストの十字架によって、すべての契約が成就されました。聖書の歴史は主とイスラエルとの契約の歴史です。

(5) イスラエルの選びは契約によって今日も変わりません (ロマ 11:29)

アブラハム契約によるイスラエル民族への祝福は永遠かつ不変です。アブラハム契約の通りにイスラエルは民族として成長し、シナイ契約によって、聖なる国民、祭司の王国とされました。イスラエルに与えられた律法に違反し、のろいと災いを受けたとしても、イスラエルが悔い改めれば、祝福は回復されました。そして、イエス・キリストによって結ばれた新しい契約によってシナイ契約は更新され、終わりの日にイスラエルはイエスを信じて救われます。また、国土を回復し、神の賜物と召命を正しく理解し、聖別され、永遠に神の民とされます。

1.2 「契約」と教会

(1) 異邦人もキリストへの信仰によって主と契約を結び、主の民とされました（Ⅱコリ 3:6）

異邦人教会は、新しい契約の恵みを受けて、新しい契約に仕える者となりました。

(2) 信仰によるアブラハムの子孫となり、祝福を世界にもたらす使命を受けています

（ガラ 3:7、3:14、3:29）

異邦人教会は、アブラハム契約の祝福を受け継ぐこととなりました。異邦人は契約について他国人であり、遠く離れていましたが、キリストの血によって近い者とされました。信仰による人々こそアブラハムの子孫であり、アブラハムへの祝福が、キリスト・イエスによって異邦人に及び、約束による相続人とされるのです。この契約を受けた異邦人教会も祝福を世界にもたらす使命を受けているのです。

2. イスラエルと教会は新しい契約によって一つにされます

イスラエルも異邦人もキリストによって同じ国民、神の家族になりました。アブラハムの二つの子孫がキリストの十字架によって一つとされる時、すべての契約が完成します。

(1) イスラエルにとってすべての契約の完成は、キリストの再臨の時です

（イザ 59:20-21、ロマ 11:25-27）

異邦人への福音宣教が満ちる時に、イスラエル人の一部のかたくなになっていた者を含めた民族的悔い改めが起こります。その時、主は、イスラエルの国土を回復し、イスラエルの罪を取り除かれ、イスラエルはみな救われます。

(2) イスラエルと教会はキリストによって一つにされます（エペ 2:11-19）

アブラハムの二つの子孫、つまり、イスラエルと異邦人教会という二つの主の民が、キリストの十字架によって一つとされます。その時が、すべての契約の完成の時です。二つの主の民は新しいひとりの人に造り上げられ、一つのからだとして、十字架によって神との和解が与えられます。このキリストによって、両者ともに一つの御霊によって、父のみもとに近づくことができるのです。神の国を復興するために主がイスラエルを通して与えたすべての契約は、キリストにあってこの地に完成します。

私たち異邦人教会は、自分の教会だけではなく、主の大きな計画に対して責任が与えられています。すべての口が「イエスは主」と告白し、神の国が拡大するために、主の民イスラエルの祝福を祈り、和解のために仕え、それぞれが置かれている地の祝福のために仕えていく尊い使命が与えられているのです。

第9章 「キリスト」と神の国と契約の関係

1. 「キリスト」は神の国を完成されます

1.1 キリストの初臨―「キリスト」が大祭司として支配される神の国

(1)「キリスト」が臨在された神の国（公生涯の神の国）

「キリスト」がこの地に来てくださり、神の国がもたらされました。「キリスト」がおられる所では天の御国がそのまま来ており、天にないものが消えていきます。

(2)「キリスト」昇天後の神の国(祭司の王国)(ヘブ 9:11-12、8:1、7:25、ロマ 8:34)

「キリスト」は大祭司として祭司の王国を完成されました。イスラエルが王としてのイエス・キリストを拒絶した結果、イエス・キリストは十字架にかかり、復活し、昇天され、大祭司として神の右に着座されたのです。「キリスト」はいつも生きていて、執り成しをしておられます。

(3)「キリスト」は教会のかしらとして神の国の働きを進められます

(マタ 21:43、16:19、ロマ 11:29)

教会は、「キリスト」を信じる国民として神の国を受け継ぎました。教会は、「キリスト」をかしらとする「キリスト」のからだとして神の国の働きをします。教会には神の国の権威が授けられており、神の国の祝福の源として、それを広げていく役割を担っているのです。ただし、「神の国＝教会」ではありません。また、教会はユダヤ人のキリスト信仰者から始まったのであり、教会がイスラエルに取って代わったわけでもありません。イスラエルには決して変わることがない賜物と召命があるのです。

1.2 キリストの再臨―「キリスト」が王として支配される神の国

(1)「キリスト」が王の王として、サタンの勢力を滅ぼされます (黙示 19:11-20)

「キリスト」はこの地に再臨され、イスラエルを救い、オリーブ山に立ち、サタンと反キリスト、偽預言者を打ち破ってください。「キリスト」は白い馬に乗り、その頭に多くの王冠をかぶり、天にある軍勢とともに、サタンの勢力を滅ぼされます。

(2) 千年王国 (黙示 20:1-6)

サタンが千年の間縛られ、第一の復活にあずかる者・艱難時代の聖徒たちは、王として「キリスト」とともに千年の間この地を治めます。

(3) サタンとその国の滅亡 (黙示 20:7-10、12-15)

千年の終わりにサタンは解き放たれますが、天からの火により焼き尽くされ、サタンは火と硫黄との池に投げ込まれます。また、いのちの書が開かれ、海、死、ハデスから死んだ人々が出され、人々はその行いに応じてさばかれます。いのちの書に名のしるされていない者は、死とハデスとともに、火の池に投げ込まれることになります。

(4) 「キリスト」が新しい天と地に王として君臨されます (黙示 21:1-2、22-24)

以前の地は過ぎ去り、新しい天と地が訪れます。そこには、もはや死、悲しみ、苦しみ、のろわれるものもありません。また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられ、主のみもとを出て、天から下ってきます。その都には神殿はなく、主と「キリスト」が神殿であり、主の栄光が都を照らします。神のシャカイナ・グローリー(※)がそこにはあるのです。諸国の民は都の光である「キリスト」によって歩みます。

(5) 神の国の完成 (イザ 65:17-19、黙示 22:3-5)

主が私たちと共に住まれる神の国という、永遠のはじめからの主の計画が完成します。主は新しい天と地を創造され、主との永遠の親しい交わりの中に人々を招いてくださるのです。主はエルサレムを創造して喜びとし、その民を楽しみとしてくださいます。主と小羊キリストとの御座が都の中にあって、そのしもべたちは主に仕え、主の御顔を仰ぎ見ます。神である主が人々を照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光も必要なく、もはや夜もありません。そこに住む人々は主が創造するものをいつまでも楽しみ喜ぶことが許され、泣き声も叫び声も聞くことはありません。

(※) シャカイナ・グローリー: 語源はヘブル語で「シャカン(住む)」という言葉の名詞形と英語の「栄光」を繋げた言葉「神の臨在に伴う栄光」。神の臨在が人間に知覚できる現象となって現れたもの。具体的な現れとしては、光、火、煙、雲、雷、雹、角笛の音など。

2. 「キリスト」は契約を成就されます

2.1 アブラハム契約の成就

(1) 「キリスト」はアブラハム契約を成就する方です

①「キリスト」はアブラハムの子孫として生まれました (マタ 1:1)

イエス・キリストはアブラハムの子孫、ダビデの子孫としてこの地に来てくださいました。

②アブラハムの祝福は「キリスト」によって異邦人に及びました (ガラ 3:14)

アブラハムへの祝福は、イエス・キリストによって、ユダヤ人だけでなく、異邦人にも及ぶようになりました。「キリスト」はユダヤ人を始め、すべての民族に救いの祝福をもたらしてくださいました。

(2) アブラハム契約はどのように成就されたか

①アブラハムと子孫を大いなる国民とし祝福する(創世12、15章、マタ 15:24、ヨハ3:16)

「キリスト」はイスラエルの滅びた家のために来られました。神の国の祝福は、まず契約の民であるイスラエルに与えられました。それだけでなく、「キリスト」は肉におけるアブラハムの子孫として、すべての民族に神の国の祝福をもたらされました。「キリスト」を信じるすべての人が、「キリスト」によって神の国に入ることができるようにされたのです。

②アブラハムと子孫は諸国民の祝福の基となる (創世 12 章、ロマ 11:29)

アブラハムの子孫とは、肉による子孫イスラエルと信仰による子孫異邦人クリスチャンの両方を指しています。「キリストのからだ」である教会には祝福を世界に広げる働きが与えられています。また将来、主選ばれ愛されているイスラエル民族は、「神の賜物と召命とは変わることがありません」とあるように、再び神の国の祝福を世界にもたらすことになります。

③アブラハムから王が出る王国の約束 (創世 17 章)

ダビデ王国、そして初臨の「キリスト」により成就しました。やがて、再臨の「キリスト」が王として千年王国を治めます。アブラハム契約はアブラハムの子孫によって成就されたのです。

④カナンの地を永遠の所有地として与える (創世 15、17 章、ヘブ 11:14)

旧約時代の人々は契約に基づいて、天の故郷、神の国にあこがれ、待ち望んでいました。主はカナンの地を永遠の所有地としてイスラエルに与えておられ、「キリスト」が、神の都エルサレムに再び来られる再臨の時に完全に成就します。

2.2 シナイ契約の成就

(1) 「キリスト」はシナイ契約を成就されました

① 「キリスト」は新しい契約を結び、シナイ契約を古いとされました

(マタ 5:17-18、ロマ 7:6、ヘブ 8:13、ルカ 22:20)

「キリスト」は律法や預言者を廃棄するためではなく、成就するために来られ、主は出エジプトの際に結ばれたシナイ契約を初めの契約、古い契約とされました。「キリスト」は最後の晩餐で新しい契約を結ばれました。すなわち、過越の祭りの食事に際し、自らのからだを血をパンとぶどう酒をもって表し、過越の羊として、シナイ契約を破った呪いをすべてご自分の体に引き受け、ご自身を差し出されたのです。

② 「キリスト」はモーセの律法からイスラエルを解放されました (ロマ 7:6)

「キリスト」により、私たちは律法から解放され、古い文字によらず、心に書かれた律法、新しい御霊によって仕える者とされました。また、律法はイスラエルを義とすることができませんでしたが、「キリスト」が律法を成就されました。イスラエルはその「キリスト」を信じることで、聖とされ、聖なる国民としての務めを果たすことができるようになりました。

(2) シナイ契約はどのように成就されたか

① イスラエルは律法による義を得られませんでした (ロマ 6:23)

人間は律法を守り行うことはできません。そしてその罪の結果は死なのです。モーセの律法の下では、罪の贖いとして家畜の血が捧げられました。

② 「キリスト」は律法を守り通すことで義を成就されました (ヘブ 4:15、Ⅱコリ 5:21)

「キリスト」は律法をすべて守り、一度も罪を犯されませんでした。「キリスト」は罪を知らない方でした。また「キリスト」は律法の本質である聖と愛と義を成就されたのです。

③ 「キリスト」は神の義を罪人に与えられました (マタ 20:28)

義なる「キリスト」が罪の呪いと死を引き受け、罪人の身代わりとなりました。十字架で流された血を贖いの代価とし、ご自分のいのちを与えてくださいました。

④ 「キリスト」を信じる者は神の義をいただき、保証として聖霊を受けます

(ロマ 3:24-26、ガラ 3:24-25、Ⅱコリ 5:5、エペ 1:14)

「キリスト」が罪の身代わりとして死なれたことを信じ、救い主として受け入れる者は、律法を守った者とみなされ、恵みによって義と認められるのです。こうして「キリスト」へと導く養育係としての律法の役割は完了します。そして、神の義が与えられた保証として聖霊を受け、聖霊が「キリスト」の愛の律法を実践できるよう助けてくださいます。

2.3 モアブ契約の成就

(1)「キリスト」は人として、悔い改めのバプテスマを受けられました(マル1:4、マタ3:11-13)
イエス・キリストは罪のない方でしたが、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを正しいこととして人々に示し、ヨハネからバプテスマをお受けになりました。

(2)「キリスト」は悔い改めを神の国に入る条件とされました(マコ1:15、ルカ5:32)
新しい契約において、「キリスト」は悔い改めを神の国に入る条件として示され、罪の赦しを得させる悔い改めとしてモアブ契約が成就されました。

(3)「キリスト」の十字架がなければ、悔い改めによる救いはありません
(ロマ6:3-10 ルカ24:46-48)

「キリスト」の十字架の死と復活によって、罪と死は「キリスト」を支配することはありません。「キリスト」の十字架の前に自分の罪を悔い改める者は、「キリスト」の死にあずかるバプテスマによって、「キリスト」とともに葬られ、同様に「キリスト」の復活のいのちにあずかり、新しい歩みをすることができるのです。

2.4 ダビデ契約の成就

(1)「キリスト」はダビデ契約をダビデの子として成就されました
(Ⅱサム7:16、黙示22:16)

「キリスト」はダビデ王国の流れを継ぐダビデの根、子孫であり、ユダ族の王です。

(2) ダビデ契約はどのように成就したか

①ダビデの子孫から出てくる者が王国を確立する (エゼ34:23-24、ルカ1:32)
イスラエル統一王国と南のユダ王国は、ダビデの家系が継承していきました。そして、「キリスト」はダビデの子として来られ、ダビデ王国(王権による神の国)を回復されます。

②ダビデ王国はとこしえに続く (黙示5:5、ダニ7:13-14)

旧約時代のダビデ王国はBC586年に滅亡しました。しかし、ダビデの家系は続いていきました。ダビデの子孫から出てくる者が王として永遠に神の国を確立するという約束は、再臨される「キリスト」が神の国を永久に堅く立てることによって成就されます。ユダ族から出た獅子、ダビデの根である「キリスト」が勝利を取られるのです。「キリスト」に主権と光栄と王国が与えられます。その主権は過ぎ去ることがない永遠の主権であり、その国は滅びることがありません。

2.5 新しい契約の成就

(1) イスラエルの回復の成就

①民族の継続

聖書の民ユダヤ民族が現在も継続されています。

②聖書の言語ヘブル語が話し言葉としてユダヤ人に回復

19世紀末にエリエゼル・ベン＝イエフダが自分の家庭でヘブル語を復活させました。

③ユダヤ人の祖国帰還

1882年、第一回帰還(アリヤー)。ロシアでのユダヤ人迫害(ポグロム)を契機にユダヤ人が帰還を始め、ナチス・ドイツの迫害(ホロコースト)で拍車がかかりました。

④国土と国家の回復 (エレ 16:15-17)

1948年イスラエル国建国。アラブ・イスラム諸国から約80万人のユダヤ人が追放され、難民として祖国に帰還しました。

⑤エルサレムを首都として回復 (エレ 31:38)

1967年イスラエルはエルサレムを奪還しました。

⑥信仰の回復

イエスをメシヤと信じる人々が起こされ、その人数が増えています。

⑦神殿の再建 (エゼ 37:27-28)

礼拝の中心である神殿の回復が「キリスト」の再臨前に成就されます。

(2) 「キリスト」を信じるすべての民族への約束の成就

①「キリスト」を信じる者は罪と死の呪いから解放されます (使徒 26:18)

「キリスト」の十字架の贖いにより、罪赦され、その罪は二度と思い出されることはありません。「キリスト」を信じる者は、神の国を受け継ぎ、永遠のいのちが与えられます。

②神の国を受け継ぐ保証として聖霊を受けます (エレ 31:33、ロマ 2:29、エペ 1:14)

肉の割礼の代わりに、聖霊によって心の割礼が与えられます。聖霊は御国を受け継ぐことの保証なのです。

③神の国で永遠の祝福を受けます

「キリスト」が王として再臨される時に、栄光のからだに復活し、完全な祝福の中に入れます。主が私たちと共に住んでくださり、神のシャカイナ・グローリーの中で、永遠に主と過ごすのです。

④イスラエルと異邦人クリスチャンが一つになる

(エペ 2 章、ゼカ 12:10、ロマ 11:26-27、エペ 3:6)

イスラエルがイエスをメシヤとして受け入れ、異邦人クリスチャンと一つになる時、神の国が完成するのです。このことは旧約時代の人々には隠されてきて、新約時代になって啓示されてきたことです。キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となります。イスラエルに新約の完全な成就という恵みが訪れるのは、「キリスト」の再臨の時、イスラエルが国土を回復し、民族的悔い改めが起こる時です。聖霊によってイスラエルの霊の目が開かれ、自分たちがメシヤを拒絶したことを悔い改め、メシヤを呼び求める時、主が来てくださるのです。

第10章 「キリスト」とイスラエルと教会

1. イスラエルは「キリスト」を人類に送り出しました

1.1 旧約時代、イスラエルは「キリスト」の到来を準備し、預言し、熱望しました

- | | |
|-----------------|------------------|
| ①律法（創世記～申命記） | 「キリスト」到来のための土台作り |
| ②歴史（ヨシュア～エステル記） | 「キリスト」到来を準備する過程 |
| ③詩歌（ヨブ記～雅歌） | 「キリスト」を慕い求める思い |
| ④預言（イザヤ書～マラキ書） | 「キリスト」到来の待望と預言 |

1.2 新約時代、イスラエルは預言どおり、「キリスト」を生み出しました（マタ 1:1）

イスラエル民族に主が与えられた重要な3つの役割は「聖書を書き写すこと」、「イエス・キリストを世に送り出すこと」、「再臨の鍵を開けること」です。イエス・キリストは聖書の預言の通り、アブラハムの子孫、ダビデの子孫としてこの地に来てくださいました。

2. 「キリスト」は教会を地上に建てられました

2.1 教会は「キリスト」のからだ、「キリスト」は教会のかしら・花婿です

①教会は「キリスト」のからだ（エペ 1:22-23、I コリ 12:27）

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。そしてキリストを信じる、一人ひとりが各器官なのです。

②「キリスト」は教会のかしら（コロ 1:18、エペ 4:11-16、5:23）

御子はそのからだである教会のかしらです。からだは、頭につながっていることで、すべての健全な働きが出来ます。

③「キリスト」は教会の花婿（II コリ 11:2、エペ 5:25-27）

教会は「キリスト」の花嫁とされており、「キリスト」は花婿です。

「キリスト」は教会を愛し、教会のためにご自身を捧げてくださいました。「キリスト」がそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会を聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

2.2 教会は「キリスト」の栄光を現すために、聖霊の力によって活動します (使徒 1:8、9:31、エペ 3:14-21)

教会は「キリスト」のからだとして、かしらなる「キリスト」の願いである神の国の働きを聖霊の力によって拡大していきます。

3. イスラエルと教会は「キリスト」によって一つにされます (エペ 2:18-19)

「キリスト」はご自身の血によって新しい契約を結ばれました。それはイスラエルが土地と民と国を回復し、ユダヤ人と異邦人はイエスをメシヤと信じることによって救われ、両者は一つとされて神の家族となり、神の国が完成するという約束です。イスラエルと教会は、共に主の聖なる民として、神の家族となるのです。

※本来教会とは、イエスを「救い主キリスト(メシア:油注がれた者)」と信じるユダヤ人(メシヤニック・ジュー)と異邦人クリスチャン両者の共同体のことです。しかし、本テキストでは異邦人クリスチャンの集まりを指して「教会」と表記しています。

<第1章 1.2 注の再掲です。>

4. 「キリスト」まとめ

- (1) 聖書は創世記から黙示録まで「キリスト」を焦点に語られています
- (2) 「キリスト」は聖書に書かれたすべての預言を成就されます
- (3) 「キリスト」はアブラハム、シナイ、モアブ、ダビデ、新しい契約をすべて完全に成就されます
- (4) 「キリスト」は約束されていた神の国を完成し、その祝福を全人類にもたらし、王として新しい天と地を治められます
- (5) イスラエルと異邦人クリスチャンは「キリスト」の十字架によって一つにされ、「キリスト」と共に神の国を相続します

第 11 章 学びの終わりに

ここまで三つのテーマを通して聖書を学んできました。いかがだったでしょうか。主が聖書全体を通して語っておられるテーマを知り、信仰生活を歩んでいきましょう。この学びは学んで終わりではありません。皆さんが日々聖書を読む土台、信仰生活の土台が強められ、主と共に歩み、神の国の完成のために、キリストの弟子として実を結んでいくことを目標としています。是非、三つのテーマで聖書を読んでいきましょう。

1. 三つのテーマで聖書を読む

(1) 聖書全体のストーリーを理解し、聖書を読んでいきましょう。

アブラハム、モーセ、ダビデらはキリストの到来を待ち望み、アブラハムからおよそ 2 千年後、ついにその子孫であるペテロやパウロらが約束の成就を見ました。そして、今度は、パウロらがユダヤ人と異邦人が神の家族となる日とキリストの再臨を待ち望むようになりました。パウロからおよそ 2 千年、信仰によるアブラハムの子孫である異邦人クリスチャンがこのことを待ち続けています。イスラエルが再び建国され、世界中に福音が届けられようとしています。私たちは、イエス・キリストの再臨と神の国の完成を待ち望む、終わりの時代に生かされています。私たちは目を覚まし、主のみことばを見張っていきましょう。

(2) 素直にみことばを求めましょう。

主のことばを主のことばとしてそのまま受け入れていきましょう。主が「イスラエル」と語られる時、それは「イスラエル」を指しており、「エルサレム」と書かれている時、それは「エルサレム」を指しています。

(3) 聖書が教える信仰に歩んでいきましょう。

聖書の時代の主の民イスラエル民族と初代教会の民にとって、信仰とは行動です。「信仰と行いは一つである。」それがイスラエル本来の信仰、聖書の信仰なのです。この学びを通して主を直接的に体験し、信じることと生きることは一つであるという、聖書が教える信仰に歩ませていただきましょう。私たちは世の光であり、良い行いを通して主の栄光をこの地に現す者とされています(マタ 5:14-16)。

2. 三つのテーマと信仰生活

(1) 主の約束を待ち望む (エペ 5:26-27)

主の約束と計画の成就を期待して祈っていきましょう。主の偉大な計画の中で、アブラハムの血族による子孫イスラエル・ユダヤ人と「イエスは主」と信じる信仰によるアブラハムの子孫・異邦人が、キリストの十字架によって一つになり、契約が最終的に成就し、神の国が完成するその日を待ち望んでいきましょう。花婿なるイエス・キリストが再びこの地に来られる日のために、キリストの花嫁としてみことばと御霊によって日々整えられ、備えていきましょう。

(2) 「キリスト」のための私

主の壮大な歴史的計画の中で「私のためのキリスト」から「キリストのための私」、個人の祝福のための信仰から世界に祝福を届ける信仰へ歩ませていただきます。私たちは祝福の基、聖なる祭司とされています。私たちは祝福を宣言し、また祭司として執り成していきましょう。私たちの置かれている国、地域、家庭で、私たちに与えられている賜物が神の国の働きのために用いられていくよう求めていきましょう。

(3) 二つの「主の民」の役割と関係 (ロマ 11:16-18)

聖書に記される二つの「主の民」、イスラエル(ユダヤ人)と教会はそれぞれ神の国の鍵を持っています。ここまで学んできたように、イスラエル(ユダヤ人)によって、キリストが私たち異邦人にもたらされたことを感謝します。イエス・キリストはユダヤ人です。聖書はイスラエルと私たち異邦人教会の関係を、オリーブの木と接がれた枝として例えています。私たち異邦人クリスチャンはイスラエルというオリーブの木に接がれた野生種であって、主の恵みによってオリーブの根の豊かな養分をともに受けています。私たちはイスラエルという根によって支えられているのです。異邦人信者はユダヤ人に対して誇り高ぶることなく、イスラエルとの結びつきによって、真のアイデンティティが見い出され、養育され、保たれ、支えられるのです。

私たちはイスラエル(ユダヤ人)のためにみことばの約束が実現するよう祈っていきましょう。また、和解のために実際に行動していきましょう。

「あなたがたはイスラエル人をこのように祝福して祈りなさい。

『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』

彼らが私の名でイスラエル人のために祈るなら、わたしは彼らを祝福しよう。

(民数 6:23-27)」

聖書の三つのテーマ

「エルサレムの平和のために祈れ。
『おまえを愛する人々が栄えるように。
おまえの城壁のうちには、平和があるように。
おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。』
わたしの兄弟、わたしの友人のために、さあ、私は言おう。
『おまえのうちに平和があるように。』
私たちの神、主の家のために、私は、おまえの繁栄を求めよう。
(詩篇 122:6-9)」

終わりに

イエス・キリストを通して私たちも信仰によるアブラハムの子孫とされていることを感謝します。イエス・キリストの血潮で覆われて、永遠のいのちの契約が生きた契約として私たちに与えられました。神の国の祝福を相続することができることを感謝します。主のみことばを愛し、敬い、みことばをほめたたえます。

また、みことばご自身であるイエス・キリストを愛します。みことばを開く中で、イエス・キリストご自身とますます出会うことができますように。神を知るための知恵と啓示の御霊が、私たちがみことばを悟ることができるように助け導いてくださいますように。聖霊様を歓迎いたします。

すべての栄光が私たちの主イエス・キリストにありますように。



表紙のデザインは、エルサレム旧市街にあるクライストチャーチのステンドグラスを参考にしています。
イスラエルを通して全世界を祝福するという神様が与えた契約を、オリーブの木の根と幹、栽培種の枝であるユダヤ人(メノラー)で表し、イエス・キリストによってそこに接ぎ木された野生種の異邦人クリスチャン(十字架)を表しています。
イエス・キリストが再びこの地に戻って来られるとき、イスラエルと異邦人の救いは完成し、すべてのものはキリストにあって一つとされます。
(聖書参照箇所：創世 12:1-3、ロマ 11:11-24、エペ 2:11-22 他)